特1—278

本草圖譜

本草圖譜 卷之七十目錄 一 蘿園閣藏

本草圖譜卷之七十目錄

果部 味類

秦椒	さんせう	一	
蜀椒	ふるまさんせう	三	
蔓椒	つるさんせう	五	
胡椒	こせう	物印忙の圖	
一種		物印忙の圖	七
山胡椒 附錄	さんこせう	物印忙の圖	八
竹葉椒 集解	ちくやうせう	二	
崖椒	かいせう	四	
地椒	ちせう	不詳	
同		度々涅斯の圖	六
畢澄茄	ひつちやうか	舶来の実	
一種	せうふのき	九	

吳茱萸	十	一種 十一
食茱萸	十二	鹽麩子 十四
咸平樹 附錄 不詳		酸角 同上 同上
鹹草 同上	十五	一種 十六
醋林子	十八	一種
茗		一種 紅花 廿
皋蘆		

本草圖譜卷之七十

東都 岩崎常正 著
男 岩崎信正
門人 小山廣孝 校

果部 味類

京都圖書館藏

秦椒 さんせう

丹波 土椒 蜀椒 條下

樹高さ一丈余に至る葉は皂莢に似て細く周りに細き鋸歯あり葉の中に淡緑の斑あり枝に三四分の刺を生じ樹に雄と雌とあり雄なるものは房をなして小黄花を攢族し実を結ばれば雌なるものは花稀にして実を結ぶ形赤小豆の大さなりて氣孔あるまで柚皮の如し秋に至り熟せばかの朱黒色自ら二ツに分る中に細黒子あり光澤ありて藥服の如し此樹周り三四寸より以上の物を以てせり木となれば毒を解けばとりて皮に疣瘤あるまで蝦蟇の背に似ず此皮をかうりと云野州日光山各産なり

竹葉椒 集解

山中に自生あり樹高さ丈余に至る葉は竹に似て厚く一莖五葉七葉對生し食茱萸の葉の如く枝幹に扁き刺ありて紅色葉四時凋まず花実蜀椒に似て小なり味ひ辛く微臭氣あり

蜀椒

なるたじかゝ 和名鈔

うきたしかゝ 本草和名

へふえうんせう

ハーガラペイフル 荷蘭

カンチカマニ 蝦夷

唐發 本草和名引養性要集

大樹 同書引神仙服餌方

川椒 防方

紅椒 同上

椒類數種ある中に但馬の國朝倉の郷瀧寺山中より出るものを朝倉山椒といふ又治香山椒といふ上品なり藥用に入るべし今此種處々に多し樹高さ一丈許り枝幹刺なき物を以て上品とし刺ある物は亦實を下せば生じるとあり此を次とすれば葉は秦椒に似て円く小く厚くして光澤ありて皺紋高く白斑あり春の末小黄花を攢生し雄なる物花なりて實を結ぶ形呉茱萸に似て円く秦椒に比すれば殼厚くして大なり熟しれば紅色氣孔あり殼自ら二ツに裂る中に小黒子あり光澤ありて氣の眼の如くこれ椒目なり味ひ甚辛く氣若香なり

崖椒

いぬさんせう

のさんせう

山野に自生多し樹大なる物は一丈余に至る枝幹刺多し葉は秦椒に似て長く尖り香ひ臭氣を帯ぶ花實は秦椒より多く付く香ひ悪し食用に宜しからず

田村氏の說に肥後あらひに八丈島にあり崖椒に似て莖軟弱く蔓に似て実に蔓にあらひとゝり此物田別あり形状田村氏說よろしき如し

胡椒

スワルト ペープル 荷蘭

和産なし實は舶来の物あり物印忙に寫生の圖三種あり蔓生にて蔓は黄褐色葉は南五味子に似て短く鋸齒なく互生は葉の間に二寸許りの長き穗を分て北五味子に似たり一穗に数十子を結び下垂は大さ

梧桐子の如く黒色にて一ツの白点あり愼微説ところのこれらに時珍葉如扁豆山藥葉と云は誤の如く見る舶来の実の形状是品にて梧桐子より小にて皺ありて黒褐色味ひ辛し

一種　ピペル 罹甸　ペープル 荷蘭

物印帀に載る圖蔓の形前条に同しく葉は楓葉に似て鋸齒あり實は白色にして穗をなす未數十顆攢生は此物通雅の玉椒也

同

度々涅斯に載る圖葉の形前条と同く実は前条より多くあり

物印忙に載る圖あれ胡椒の類に入る物と木本あれ葉は天竺桂に似て穂は有れ実は結に黄色あれ梧桐子より大に其穂上に向ひ恭の説に形状はられ今く似胡椒色黒顆粒大なり如黒豆と云に因て今暫く載し

山胡椒 附錄

畢澄茄

和産なし唯実のみ舶来あり形胡椒に似て稍大く味ひ辛きを胡椒に似たり

一種
せうぶのき 江戸
せきせうがく
とりつけしが
山野まゝあり葉のふるゝに
似て硬く夏月葉の間に小
き淡黄花を開き実を
結ぶ熟して黒色乾く時は
皺ありて胡椒に似たり味ひ
辛く枝葉の香ひ石菖に
似たり此物山胡椒は一種と
なれば詳かゞされ今下実の
味ひ辛を以てこゝに載ひ

吳茱萸
からすぢかき 和名鈔
いたちぢ 和名本草
からすぢかき 同上

茇子（本草和名引晉疑蜀人名之）　辟邪　公羽（其籍便覽）

掃筵（名物方言）　藥　茱萸（正字通）

漢種和產二種あり和產の物上品なり和產の物京の梅津村より出る田村氏云り又信州浅間駿州富士山にもあるよしに樹高さ丈余皮青褐色にして節多し葉は漆に似て一莖七葉九葉對生は枝幹に對生は夏月枝の梢に黃白色の小花族生は形蜀椒の花に似て粗し八九月に子熟は形秦椒に似て凹なり秦椒の如く裂は氣孔あり紫色を帶て紅色に乾く時は秦椒の大なり味ひ辛く氣裂し葉用に入るべし時珍の說に一種粒小者入藥為勝と云是なり此物根の至る處より科條を生は分ち栽ゆ一し漢種は亦同し

一種

享保年中渡る處の漢種にして枝幹和產より肥大にして葉は大葉の秦皮に似て厚くして軟なり一莖に五葉七葉對生は夏月枝の梢に黃白色の花を攢族は形柚花に似て小なり十月に實熟は紅色に蜀椒に似て凹になり稀に椒目の如き黑子あり此この漢種なれども下品に和產より臭氣強し湯を透さて水は脫用にしかるべし蘇頌一說を引て顆粒大なるは是食茱萸と云は恐は食茱萸に非ずしてこの漢種のことのなるべし

一種
漢種
日物

房州豆州其外諸國暖地に多し樹高さ二丈許り周り二三尺枝幹葉の莖共に刺甚多し葉の黄蘗に似て細く莖朱色なり秋月梢に花を開き房をなして小き淡黄花を開き実を結ぶ形秦椒に似たり熟する時は紅色氣味秦椒に似て悪此実鳥集り食ふ故にあらはせのこんせうの谷あり

鹽麩子　ぬるで 濃州　ぬりて 江戸佐州　かつのき 奥州

かしのき　勝軍木　かつのきのき 甲州

みてのき 尾州　浮木子 外臺秘要　土 証類本草

烏鹽 華夷考　鹽醋子 廣東新語以上実名

鹽膚木 正字通木の名

諸國山野に多し樹高さ一丈余葉は一莖に九葉十一葉對生して漆葉の如く葉の莖に直葉ありて箭羽の如し夏月枝の梢に穂を生して枝を分ち一尺許り下垂し細き白花多く横開し後漆の実の如き扁き実を結び外皮に白色の塩を生じ味ひ鹹しこれ木鹽なり其仁又扁らして漆子より小なりこれ鹽麩子なり秋に至り葉の莖に黄白色の袋の如き物を生じ其形又なりて鹿角に似て小なり其形一なりに中空にして硬しこれ虫の巣なり五倍子と名ぬ俗にあぶしといふ末となしたるをふしの粉といふ婦人歯を漆なに用ゐ典の部に本條ありこの樹秋に至り紅葉をなして落つぬるをりみしと云

鹽麩子

ぬるで

鹹草 附錄

ハちまりさつり 大和本草

あしたらそ 八丈島方言

豆列八丈島に多くあり又房列豆列等の海邊に多し葉は獨活に似て深綠色莖は初は黄汁出つ三年を經るこの高さ二尺許り小白花傘状をなして白芷に似たり後実を結ぶ條理ありて尤さ麥粒の如し此草八丈島にて常に米の助となして食用なしよし

一種 おふうと

紀列海濱にあり此草八丈さつりに似て冬枯さつりの如く江戸にてこれ又の八丈さつりと呼ぶ葉は八丈さつりより厚くして光澤あり花実ハ又同し根幹を經て枯れ此物毒ありとなり

醋林子

ぢくこ 江戸　やまなし 列作　くろぢくこ 列里

あかぢくこ 上総　やまつちんさ

諸國山中自生多し樹は梨に似て枝幹細く春月嫩芽に白毛あり葉は林檎に似たり花五瓣白色梨の如く秋月実熟は又梨に似て小く羸大に肉少く皮に沙紋あり初は青く熟すれば稍紅色を帯ふ味ひ甚酸し作州にては食物に加へ酸味を助くるといふ此樹皮をぢくこと呼て染家黄色を染るに用ゆ

一種

樹花実ハ似て唯葉の先実ノ鋸歯細キ物

茗

めざましらき　ちやのき　艸人木 蘭山云茶道の隠名

テア 羅甸　テヱ 荷蘭　楊責 本草和名引兼名苑　甘草 正字通

紫玉玦 同上　草魁 名物方言　龍章 同上　苦菜 通雅

不夜侯 典籍便覧　酪蒼頭 群芳譜　清人樹 同上

茶ハ山土の黄黒色なる地に栽アリ下田にてハ育しかたし葉ハ茶梅に似てあらぐ花ハ白梅に似て厚く大く芬香あり実ハ茶梅に似たり茶と茗との分ちハ釈名の注に郭璞の説を引て云早采曰茶晩采曰茗一名荈と云山城宇治其外にて三月の節に入て廿一日にして摘取をこれを云ハ昔と云其已後に摘采を後あかしと云昔の字分ては廿一日となるこれを一字に法めたる物也其初昔と名法ハ物を茶と云後昔より已後の物を茗と云ハ茶を培養するの地宇治を以て上とし其余和州吉野江州政所丹波紀州熊野駿州豫州日向筑後柳川其外諸國にしにあり本朝茶を栽るハ初製法ハ諸書に委く載ハれのこと略ス

一種

近年花淡紅色のもの出つ形は茶と同し葉莖嫩芽りとも紫色を帶ふ形状茶と同し氣味は亦同し

皐蘆 こうちや ふかちや

苦芋 通雅

薹 正字通

登 同上

山中にあり形状茗と同じく幹肥大に枝粗く葉大さ二三寸濶さ二寸許り厚く花も茗に似て大に白色なり葉をとり製して茶に煎じ氣味稍劣れり

本草圖譜卷之七十一目錄

菓部

甜瓜 ゐまうり 二
一種 三
一種 四
一種 きんまくは
一種 きんまくは
白團 集解 つるのこ 六
黄瓢 集解 ゑめらう
瓜蔕 ねつこまくは 七
西瓜 せいくは
一種 しろせいくは
一種 しろせいくは

葡萄	おとう	十	水晶葡萄 秋名和漢通名
瑣々葡萄 集解		十二	一種 物印忙の圖 十三
蘡薁	いぬゑひ	十五	一種 のぶとう 十四
獼猴桃	しらくち		一種 小葉の物 十七
甘蔗	さとうきむ	十八	崑崙蔗 集解 むらさきおとう
沙餹			石蜜 こおりさとう
饗餹 集解	あんい		刺蜜 廿

本草圖譜卷之七十一

東都　岩崎常正　著
男　岩崎信正
門人　小山廣孝　校

果部　蔬類

甜瓜

ちくとち 和名鈔　まくわうり 京江戸　あまくり

あちうり 四州九州　てうり 奥州仙臺　ちんめう 佐渡

リムヲイ 朝鮮　メルーチン 蘭　鬼延 本草和名刊 袖仙服餌方

東陵除味　朱陵仙實 共ニ同上　香瓜 盛京通志

捻青瓜 寧波府志　黄瓠瓜 蜀書　金鵞疋 食物本草

香甜瓜 瓜蒂 秋名 時珍

大和本草ニ京都江戸泉州境濃州等処ニ上品あり濃州真桑村より上品出つる故ニよき瓜をまくわと云といへり江戸ニてハ

四ツ谷鳴子村ニて作るなり上品なり　ひんぐまとつふ長さ三寸餘ニて周り三四寸熟それハ金黄色ニして緑色の細道あり肉ハ緑色なり　これを食ハ香美甚ニ甜し濃州真桑村より出るものと同形なりこれを漢名汝南圃史ニ蒜同瓜といふ總て甜瓜類と葉ハ掌の大きさにして淺き鋸齒あり面背ともに油毛あり蔓ニ又毛あり花ハ五瓣黄色　醤瓜の花の如し秋瓜を培養するの土地ハ山岡の黒土ニ作れハ上品なり下隰の砂地ニ作れハ下品なり甚しきハ味ひ醤瓜の如く塩藏せざれハ食ふ此瓜集解ニ云陰瓜ハ南瓜ニしてあらぶり又へふそうしもと呼ふものなり

一種
きんまんを
形なんやまより大ふして皮厚深に縦縞あり本皮の如く肉の色淡緑にして硬く味劣るされとも此もの多く出つ是京都谷川ありの類なり

一種
ぎんまんを
形大にしてまるつけの如く緑色の細道あり味ひなんやまと同し

白圍 集解
つるのこ 江戸
たまこうり
ぎんてんらり 京
花葉ともに甜瓜の如く至て小く実の形円く長あるも鶏卵の如く皮純白色肉淡黄緑色香味ハ劣れり

黄瓤 集解
ゆめうり 石水
金瓜 廣東新語 松江府志
花葉ともにつるのこに似たり瓜ハ形円にして鈴の如く少し扁く皮淡黄色味ひ甘かりけ淡味なり

瓜蔕　ねつこまくも　うりのへく　ねつこうり 越前

つるうり 越後地藏 宣言名　このうり 加州

甜瓜の一種越前方言ねつこうりの蔕を採り用ゆべし田村氏云瓜蔕ハ越前之羽郡福井の産を好とし其瓜塚色かしを黒ミあり形くひれて生ハ瓜の味ひ甚甜く蔕の味ひ甚だ苦し吐藥とあらくしと云ふ蘇頌宋英等一概に甜瓜蔕を用ゆと云ふなりて蘭山ハ甜瓜の未熟の蔕ハ味ひ苦きゆへ採て藥用ふべしとしかれ瓜蔕の説ハ香甜瓜又菜とあらへき蔕ハ用ゆへからはと云ふハねつこうりの蔕を用ゆるを勝れりとあれ

西瓜

さいくわ　さいらり　大坂　青登瓜　河南國史

天生白虎湯　西瓜登明　白虎湯　遵生八牋

貝原氏の説に日本の僧義堂西瓜の詩を按ずるに此種寛永年中初て異邦より来る義堂の頃西瓜いまだ渡れ何ものを云歟詳ならずしかれ古あるに中絶し近年又来れるやいかに京都にハ寛文延宝の間に始て西瓜の種を載せ今ハ多しとゝへり今西瓜種類多し四月子を下して生ず葉ハ野瓜苗に似て大に赤黄蜀葵葉に似て刻缺多し花ハ冬瓜に似たり六七月に瓜熟し皮深緑肉白色瓤江赤色子ハ黒色なり北郷尋常の西瓜なり一種城州木津にハ皮黄にして瓤赤さるものあり木津西瓜と云又一種勢州にハ皮瓤ともに黄色の色のあると云り此物下品なり一種皮瓤ともに黄色にして子の赤きこしあかぶ

うと云上品これ一種筑後に長さいくわと云あり周り五六寸長さ一尺許り皮の色淺緑にして越瓜に似たり瓤淡紅にして味ひ佳なり これを南京と呼ぶ是西江志の雪瓜なり時珍の説の長さ二尺と云ものこれなり雲州筑前にて南京と呼ぶものは常の品の如くにして皮薄く瓤紅色光粉あり味ひ甘美なり

一種

肉皮瓤ともに同じくして唯実に黒紐あるとあり

一種

白ぶどう　くるし

月明瓜　本草原始

近年此物出つ皮青白瓢子とまゝに白色味ひ甘し

葡萄

ゑび　ふどう　ゑびかつら

あわゑび　ハツ　蛟夷　トロイツ　龍須　事物紺珠

僧眼　鍍金木綿　共子同上　宇桃　劉傳花鏡

官服ニ ゑひ染ニ ゑハ葡萄の熟しなる色ニ染てをいふ諸国とまゝにありなも甲列しく出る物を佳とすれ春の末蕎蔓より芽を生れ葉ハ地錦ニ似たり花の穂ハ芽の延ニ従て葉の間ニ生れ花ハ極て小なり色淡黄白色隨て子を結ぶ初生ハ緑色熟すれハ紫黒色味ひ甘美なりくれをくろふとしとゑこれ釈名の紫葡萄にして正字通の黒水晶群芳譜の賜紫葡萄なり此種琉球名産なり一種実の色ハ紫にして長こあるものあり

桐

水晶葡萄

氣名和漢通名

葉ハ紫葡萄の如ニ小ニ刻歟深く子熟て淡綠色透明ニ

瑣々葡萄 集解

近頃白川侯園中ニ実の大き大豆不とあり淡紫色核ニ小ニ味ハ甘きものあり是奇品なり此物時珍說の大如土味子而無核と云ものニ當ルヿ

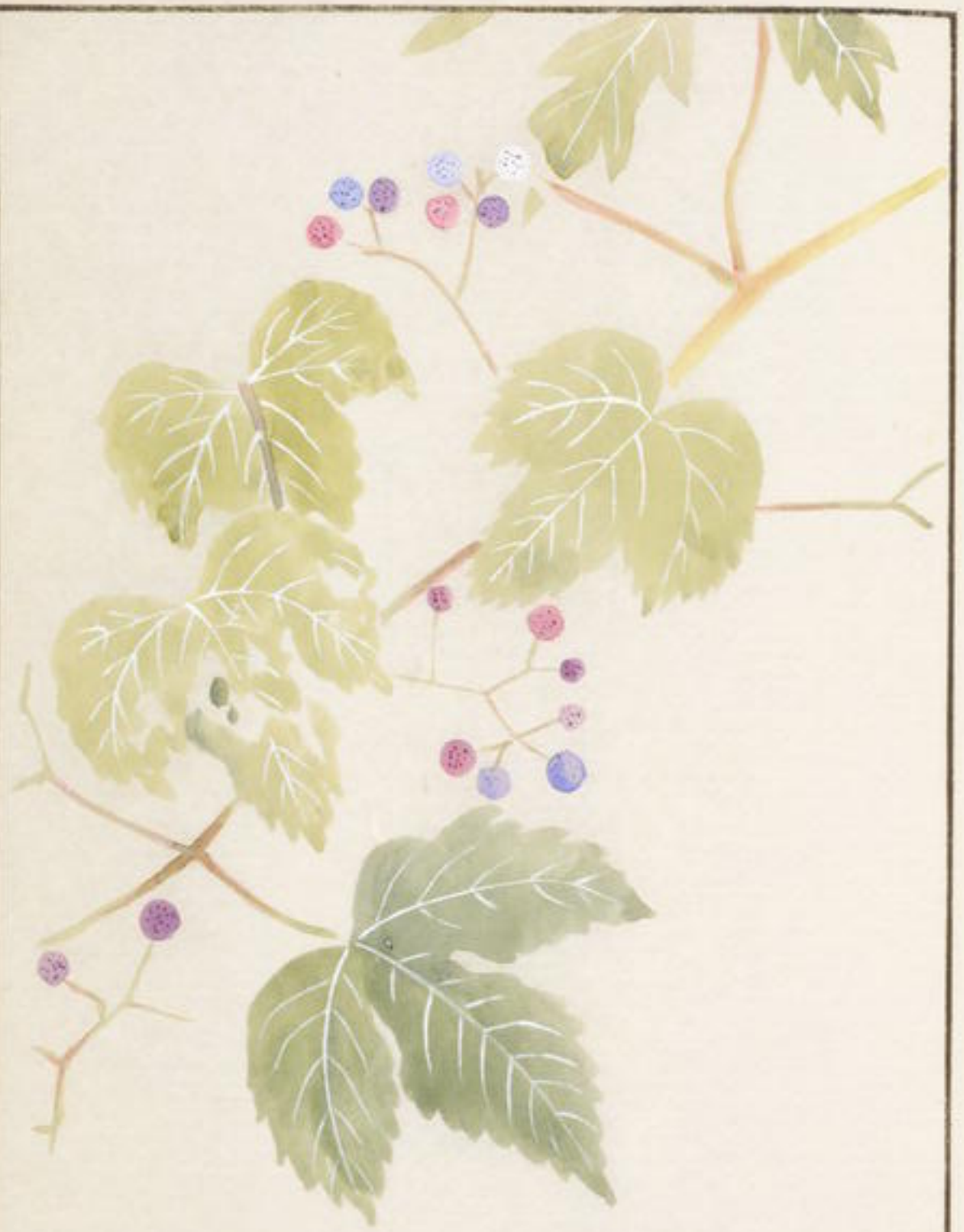
一種　ビチスカナデンシスチリホリア　荷蘭

荷蘭の書物印花に葉の刻款多く子熟して黄色ぶるとのみ是京兆の説に殷成式言荷蘭有黄白紫三種と云其黄なるものの是なり

蔄 正字通

櫻薁 通雅

龍々山野自生あり藤蔓葡萄に似たり葉も又同し五尖或ハ三尖あり葉の背黄褐色あり夏月穂をふして花を開き実を結ぶ形葡萄に似て稍ふく熟して黒色味ひ酸し奥州にてハ秋実を以て葡萄酒に作る此蔓の心に虫を生ず呼てのまゑひの如しとつふ孔雀の餌とかを一種野州月光山及ひ信州木曽山中にあり藤蔓ハふとうの如く葉の形絲瓜の葉に似て裏く背に黄赤毛あり房をかして小花を開き実を結ぶ蘡薁に似て紫黒色あり



一種

のぶとう

蛇葡萄 救荒本草

葉の形前に同くして薄く毛布其実も同くして碧紫紅白相雑る始る時は皆黒色となる

獼猴桃
和名鈔野
別奥列

一種

小葉の物

藤蔓は四時とも木枯れ春月宿蔓より芽を生ず葉は前條に似て小く葉の間に剥の如き鋸齒あり花共に前條に似て至て小し

獼猴桃　さるなし　ゆふなし　濃州

しなくち　和名鈔野州奥州

ふきやう　松前

羊桃　寧波府志

奥州野州信州山中其外諸國ともにあり藤蔓四時枯れ甚繁茂し大なる物は圍一二尺に及ぶ春月奮蔓より芽を生ず嫩芽は紅色なり葉は梨に似て長く周辺に細き鋸齒あり葉の至紅色なり夏月枝の葉の間に穗をなして花を開く形木天蓼(ゑたゐ)に似て淡黄色後実を結ぶ莖長くして下垂す冬に至りて熟れ緑色にして褐色の細点あり梨の肌の如し熟ならんは軟つにして甜なり味ひよし実の内に胡子あり生し易し

甘蔗　さとうきゑ　さとうのき　をきさとう

諸柘 大選註　于蔗 汝南圖史　藷蔗 通雅　甘藷 同名アリ

圩蠔 共ニ同上　甘蓮 正字通　アリコント 蘭荷

サツカリヘラ 荷蘭

大和本草ニ日本ニ上代ハ無シ故ニ延喜式令の養解煩和名鈔等の古書ニのせれ節用集下學集ニハ載たりと云ふ此物元暖地の産也へ寒を怒るゆへ寒地ニハ作りかゝし今四国九州紀州駿州豆州ニて多く培養れ元花突るきなへ十月の内細かなれ能実したる幹を向陽の地へ埋置き三月ニ至りて堀出し両端ニ節くゝめて却て畑ニうね作りして栽せれハ節より芽を生じ其芽ハ瘠たるハ去肥へたるを生育れ苗の形萩又蜀黍の如くにして葉微し狭し苗長して高さ丈余ニ至る葉ハ蜀黍の如く互生し其莖大ニして竹の如し皮呈く穰柔にして蜀黍の如し本ハ節密にして稍ハ漸く長し十月ニ至り莖の能く熟せる物を却り採りて轆轤ニかけて汁を搾り砂糖ニ煎ル

崑崙蔗 集解　むらさきさとう

田村氏の説ニ薩州ニて多く作る世間稀ニあり是ハ黒砂糖ニハふれども白砂糖ニハなりかたしとゝつゝ形状蜀黍の如く莖太くして紅色を帯ひ葉も蜀黍の如し

沙糖　砂糖

和漢通名にして數種あり時珍說とおろの黑さいふ又天に同物に紅糖といふ
遵生八牋に黑砂糖といふ沈南圖史に黑糖と云製法の大に同物並に沙糖製作
記平賀の物類品隱に詳なり唐並西洋琉球より渡る物薩州より出る物種類甚
た多し太白は國書に上白といふ清糖といふ廣東新語に洋糖といふ中白は國書に
中白といふ又官糖といふ下品は國書に下白といふ又畜尾といふ廣東新語に漢尾と
云紹來和製とも又數品あり

石蜜　ゆかりさとうり　ヲンデイツイノル　蜜語

製法天工開物に詳なり上品の白砂糖を煎し雞卵の白きを入れ芥を去りて青竹
を一寸餘に切て縱に割り煎汁の中に投し黑一宿を經れば氷糖となるといへり此とおら
ことをおとふんをとろうのつしとも

餐餹　解集　あまへい

此物白沙糖を以て煎し飴の如く成りたるを器にて取り土色を以て採色をなし草木魚
出諸物の形を作り吉凶共に人供し又遠に遺る時珍の說並に廣東新語にて云り

刺蜜　マンナ　名蜜

蘭書物印忙に載る圖

フリユテキスアルハヤ　和蘭

和製詳ならば和蘭の一種に香水類に載る処
に兜婁婆香和名のみるし又切るとみるといふ
水よりマンナを採るとなり

本草圖譜卷之七十二目録

果部　水果類

蓮藕　まちはのね　一
蓮實　をちはのこ　四
蓮薏　まはのこのこかい
石蓮子　釈名
實生　五
蓮花　をはのはな　六
一種　七
一種　八
一種　不忍の物
一種　藤壺蓮　九
一種　蜀紅蓮　十
一種　雲上蓮　十一

一種　金光蓮　十三
一種　毎葉蓮
一種　朝日蓮
一種　淨臺蓮　十五
一種　同
一種　金光蓮　十三
一種　同　十四

本草圖譜卷之七十二

東都　岩崎常正　著
男　岩崎信正
門人　小山廣孝　校

果部　水果類

蓮藕

まちまのね　和名鈔　いけのくさ　藻塩草　藏玉集

つゐなくさ　藏玉集　こゝつなへくさ　同上　つゐなしくさ

つれなしくさ　ミなへくさ　まちまのね

澤芝　本草和名引兼名苑

峻實　同書引大清經

蔽　正字通

元旁　同上

王臂龍　典籍便寛

禊實　同上

菱兄　名物方言

釈名に其實蓮其根藕と名とつゝに隨ひ且藕を先に成に因て根を出れ今処々水澤湖中に培養し四時ともに食用に供ふ凡藕は花粉紅ぶるもの根肥大にして大く軟に味ひ良し又もちもれと呼ぶもの食用に上品之根の周り三四寸長さ三四尺にして二三節あり此物熟すれば粘りありて軟なり

藕　蓕　もちのわらぬ

此物は夏月宿根より生する物にして夏の末秋に至りて藕と名つくる物と

藕節

[illegible]のねのふし

根鬚の生ずる処と

蓮實　ハちすのミ　和名鈔

すすのミ

藕子　事物異名

秋月花後房の中に実を結ぶ形オの実に似て初め青色熟すれハ黒色になり光澤ありて甚た硬しこれを破れハ中に仁あり仁に薄皮あり色褐色なり仁ハ白色にして味ひ甘く淡し

蓮　薏

ちしのみの　ちゃくし

仁の内に生ずるものにして苗の芽
く味ひ苦し

石　蓮子　紀名

實の熟して黒色になるものへ

実を裁るには両端を
内にきれの附ぬ事に切りて
種かれは生易し初生は葉
の大さ一寸許り並甚く細し

蓮花

こうきはな　はねつはな　こうのはな

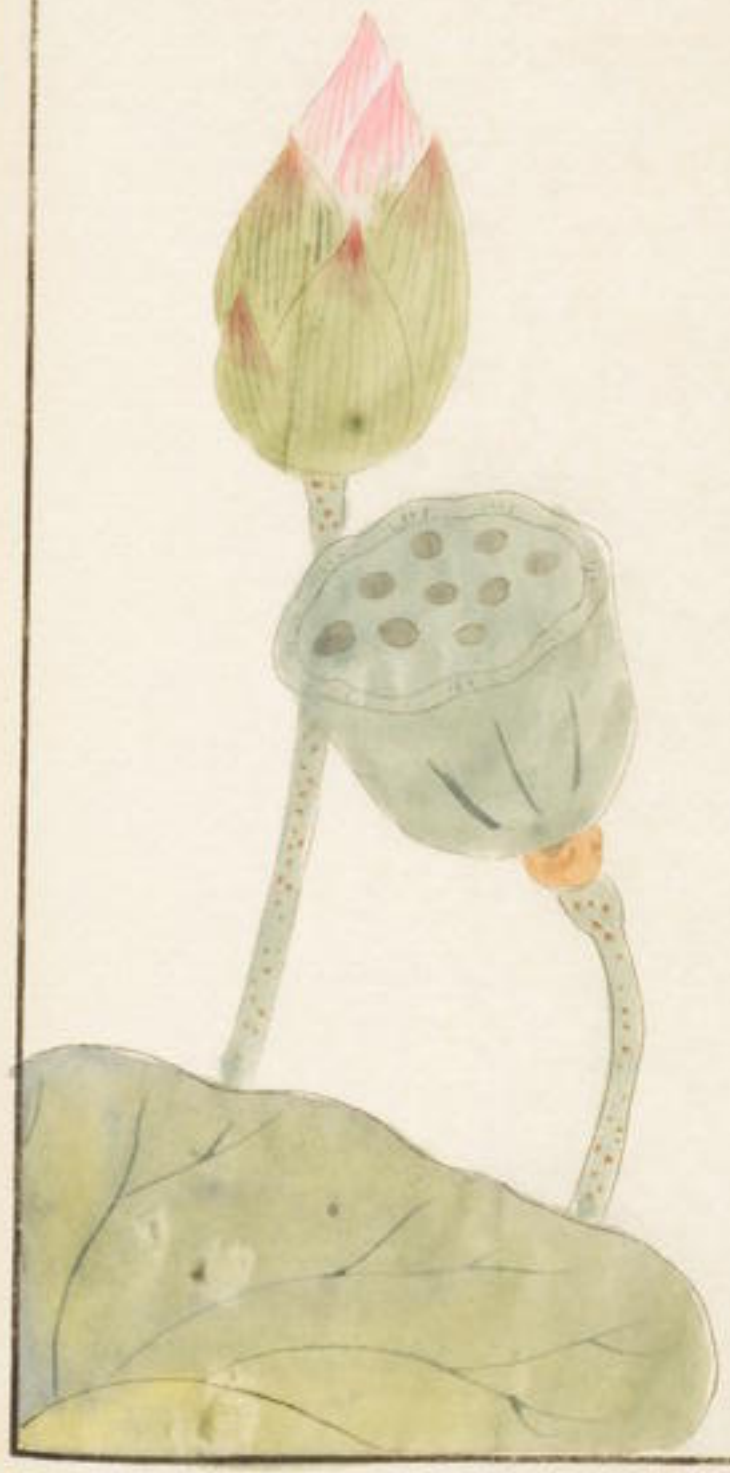
はすのはな　禅客 名花譜　静支 同上　水芝 群芳譜

水芝 同上　水旦 興籍便覧　水芙蓉　水宮仙子 同上

玉環 潜確類書　水花魁 婁元禮 日家五行

初秋藕の節に両對して蓮を生ず其一ハ葉其一ハ花ハ其花の葉ハ水上に出ると三尺許り細き黒色の点あり一ツざくはなり常に処々培養するものハ淡江の物にして十余瓣あり大さ六寸余に至る蓮の類甚だ多くして数十品に至る爰に圖する処ハ先年白川侯諸國より種類を集め給ひ別園に龍を埋め龍の内に一種つゝ培養させ洽ひ花の善悪を分別し其善しのを要く画師に命ありて写真に残し洽ひし物ハ予も侯の別園に至るを得て其花を見亦其写真の圖を写すことを願ひて今爰に載ハ又同好子志村なる物蓮類十余品を写真するを得又載ハ自ら圖するとあり三四品あり其花の所に記し以て其出る所を知りし云此圖の外に聞ところの物又其名を傳聞する者ハ唯名と形状を出し輶軒に録に江都無頭郡田中村に其田中の池に産ハ一莖の上に九つの華房ありこれに下咲くにあるハ或ハ七つ或ハ三つあり中元頃よりさく万葉蓮と云と云こ又秘傳花鏡に品字蓮と云ハ尋常の花の形にして一莖に三花開くを云あり此物本邦に有とゝとも未だ目繋せされハ圖せハ又肥後の熊本に唐蓮の類三品ありといへり其花の形大さ一尺許りにして江糸蓮の如し実の房大さ五寸許りに至り葉も又大にして傘の如く茎竹の如く刺甚だしくして刺りにとし根の長さ二間余に至り此間に節四五を生ハ圍り大にして八寸許り此根を製して粉とおれといへり又長崎唐寺に花の形芍薬花に似て江色外黄金色の如く光りある物あり実ハ未だ結ばれとゝ此外異品猶あるべきれとも未だ見聞せされハ記を恥さるのこ

尋常の品かゝて
処々に培養する物



一種

志村の藏圖花の形尋常の物ハ似法紅色く

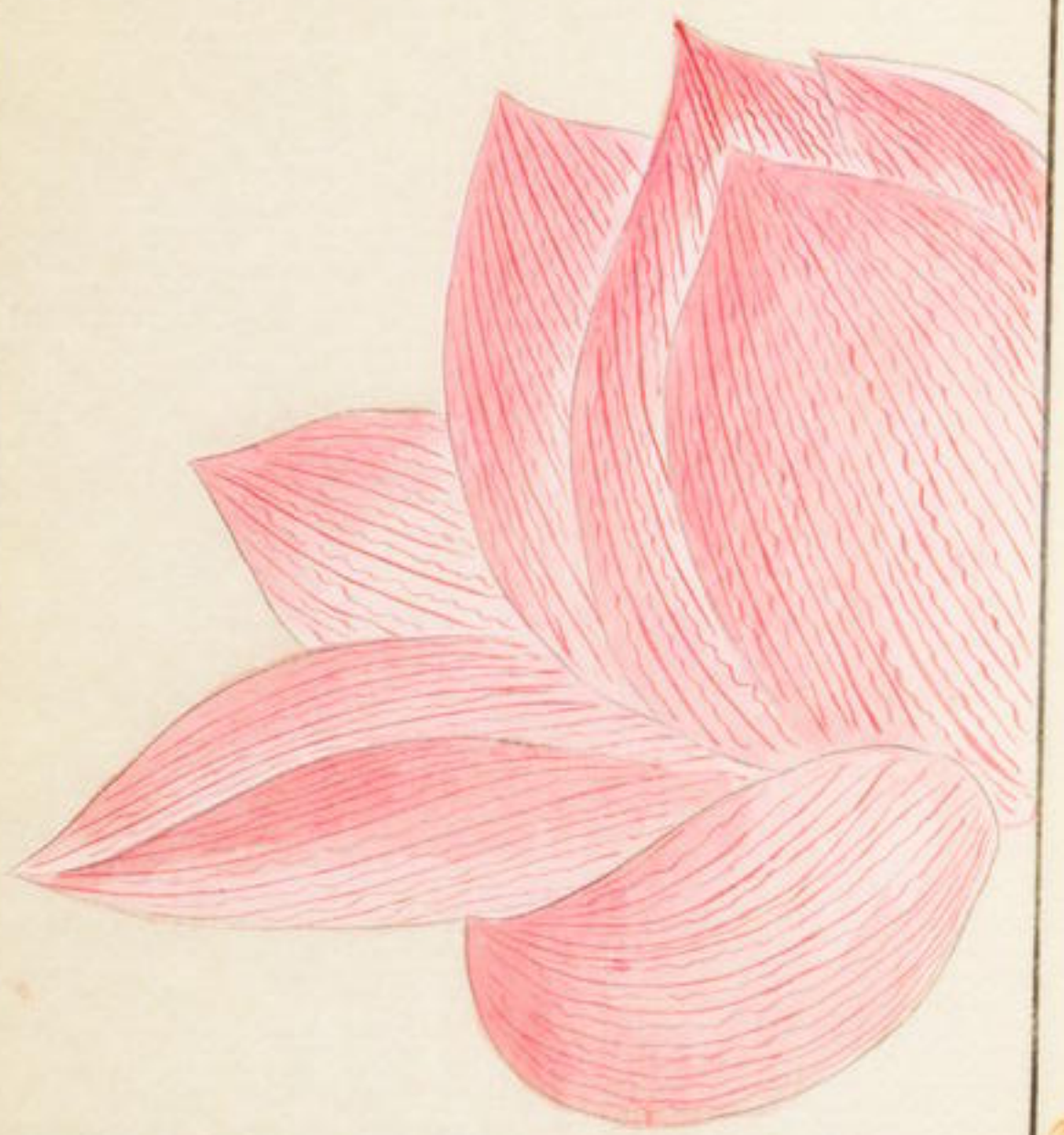
一種

円上の品ハして花の形常の物の如く粉紅ハ紅色の細理あり

一種

不忍の池の
紅蓮

白川候真圖
の物花大にして
淡紅色瓣の筋
糸の描如くにして
うねりあり



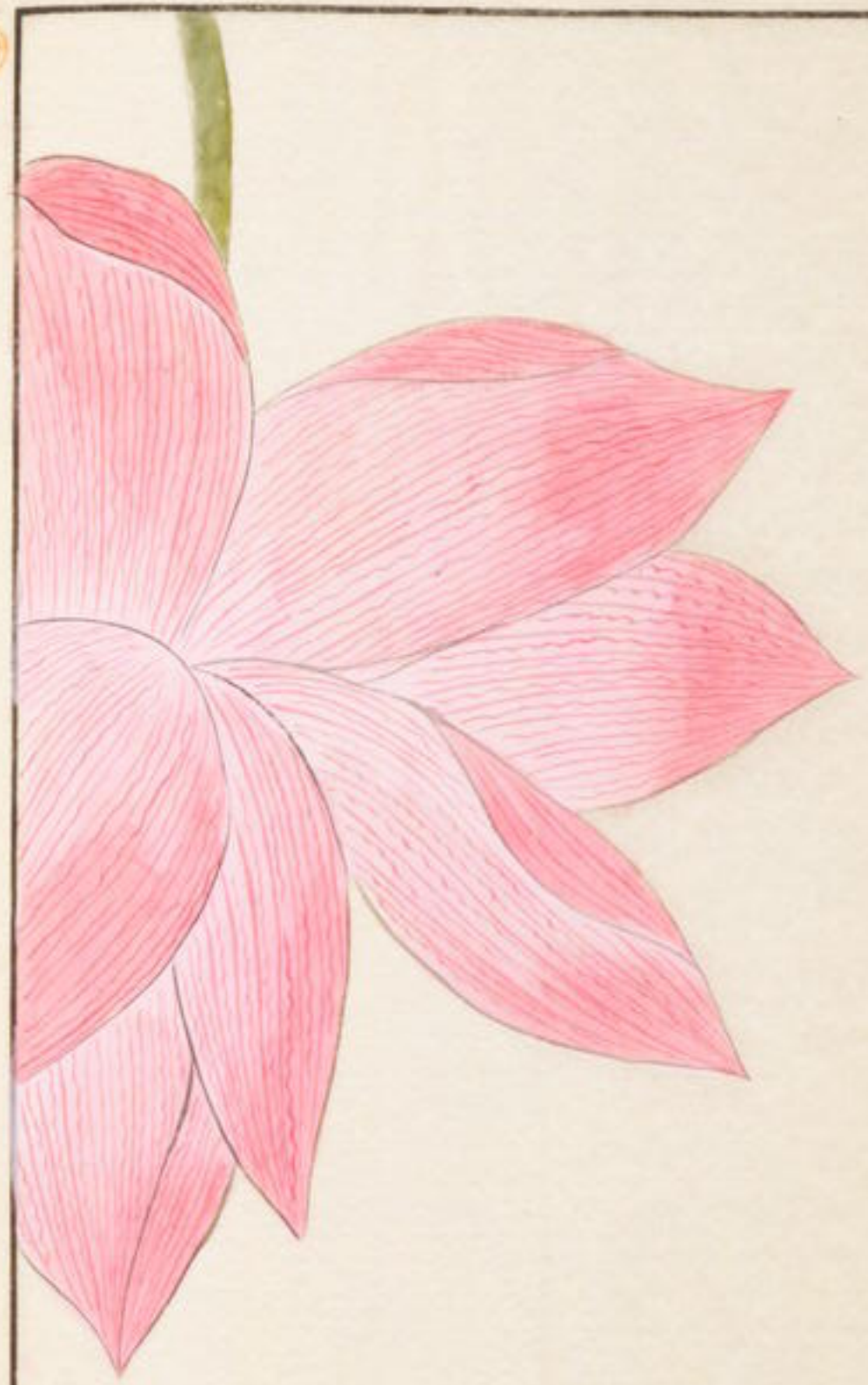
一種

藤壺蓮

白川侯真圖の物花至て大く淡紅にして先の方色濃未小淡黄を帯つり

一種　蜀紅蓮

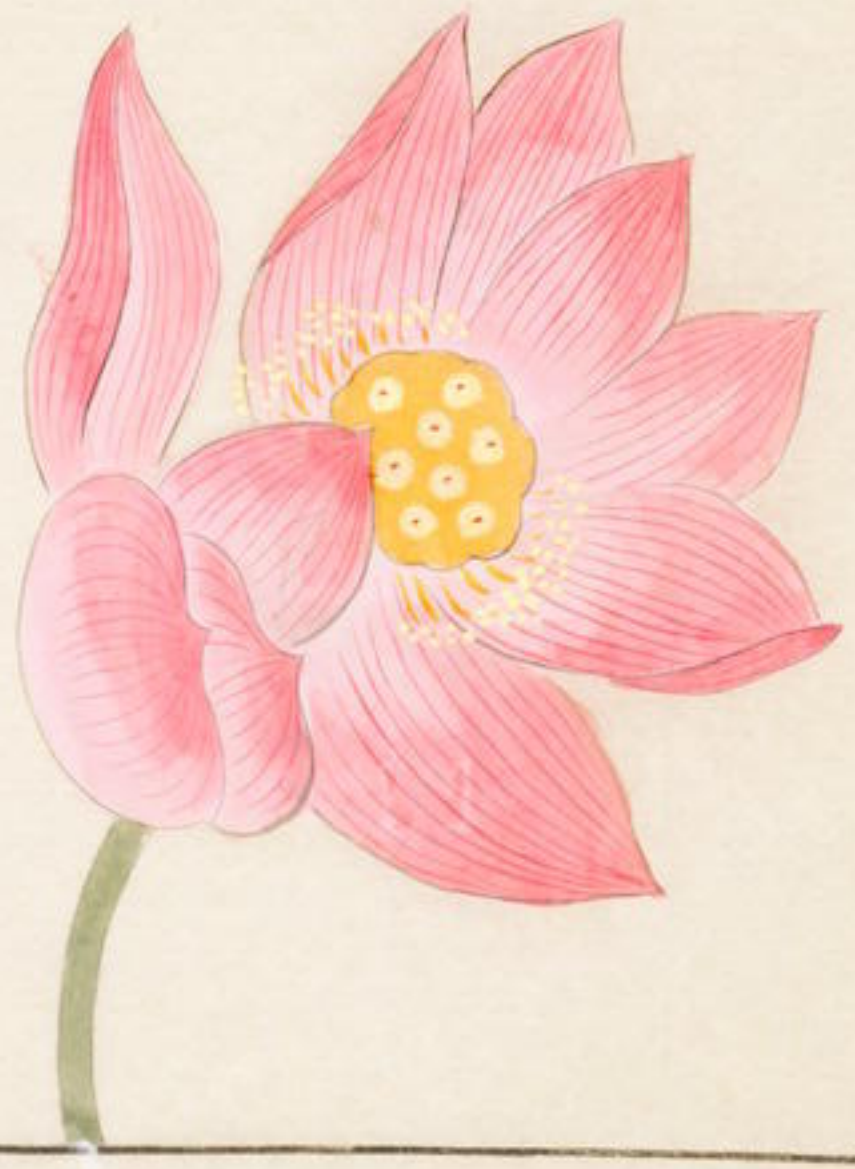
日上の國の物に
して而来不可
の地の品なり色
濃く緑の條理に



一種

雲上蓮

同上の物にして花ふく鮮細く先尖れり淡紅にして先の方濃色あり房ハ黄色を帯へり



一種

金光蓮

同上の品にして花小く鮮細し淡紅色之実ハ緑色之花の本ハ帯を生ん

一種

金光蓮

同上の圖にして花年の物より少し廣く淡紅色花の本に帯を生ん実ハ淡緑色あり

一種

金光蓮

一種

每葉蓮

一種

朝日蓮

円上の圖にて花瓣円く淡紅色にして中より先濃紅色実の房淡緑色なり花の葉さう

前の花の後の圖

一種

朝日蓮

円上の圖にして花弁円く深紅色にして甚美なり

一種

淨臺蓮

円上の圖にして花瓣円く深紅ノ物なり

本草圖譜卷之七十三目錄

果部 水果類

蓮花	一	同	滿開之圖
賜紅蓮	二	同	衰之圖
七曜蓮	三	同	表之圖
通絲蓮	四	金輪蓮	五
一種	通絲蓮	佛足蓮	六
天上蓮		玉緯蓮	七
一種	玉緯蓮 一名法華蓮		八

一種　玉縫蓮　九
紅碧臺蓮　十
一種　錦辺蓮　十一
嘉祥蓮
肥後蓮　十二
一種　錦辺蓮
一種
錦蘂蓮　十一
錦邊蓮　十三
瑞香蓮　十四
天竺斑蓮　十六

本草圖譜卷之七十三

東都　岩崎常正著
男　岩崎信正
門人　小山廣孝校

果部　水果類

蓮花

前本七十二に載るとしくとも盡さる夕に而以て爰に載る者數十品尚此余これあり
へられたる赤き日繋せされハ載る能ハ几

一種　賜紅蓮

白川侯蓮譜に載る圖花の形豊にして牡丹の如く辨大に數少く淡紅色花の本に葉
あり牡丹亦芍藥に似て青紫色之

同上滿開の圖

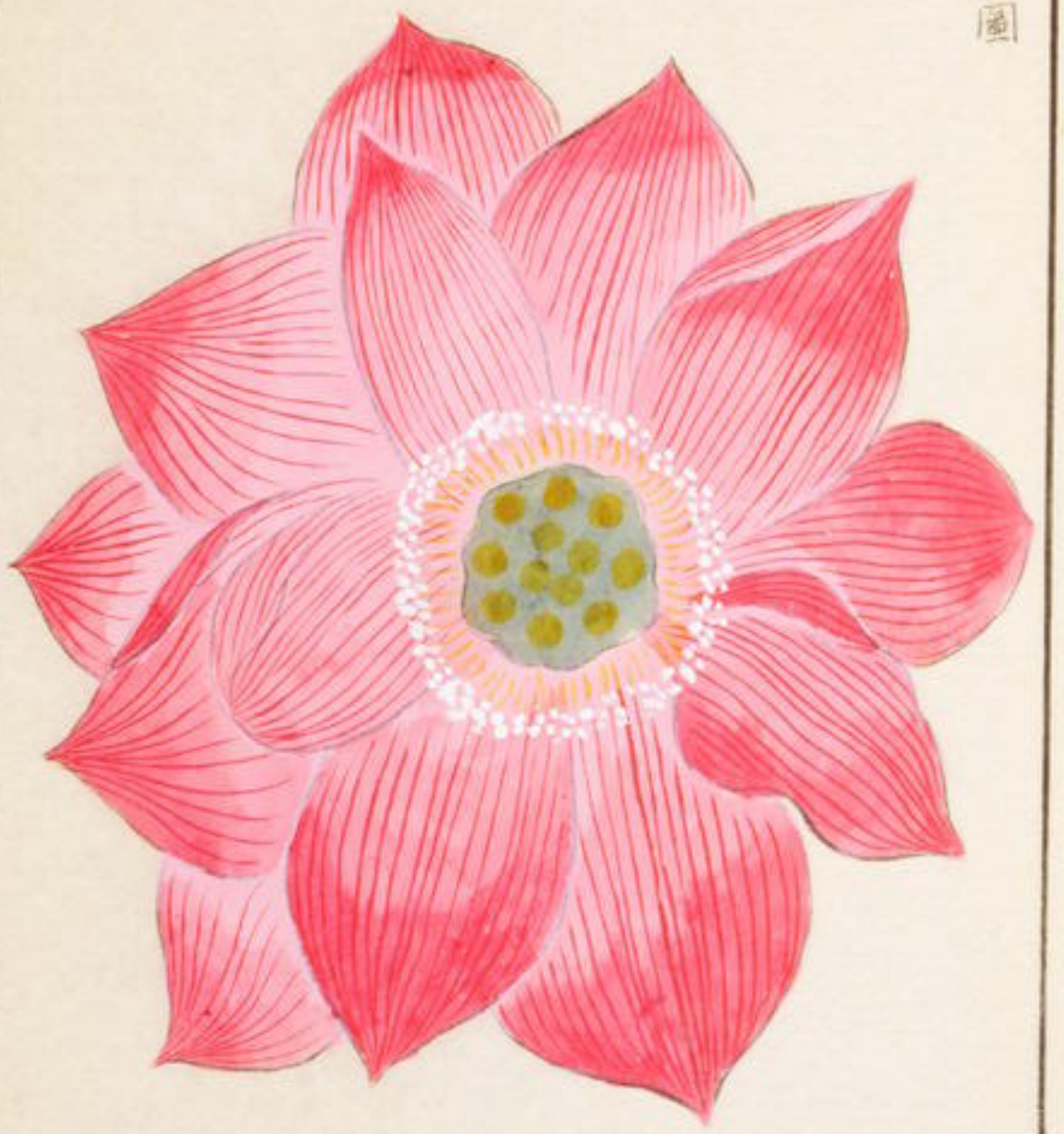
一種

七曜蓮

同上の圖

花瓣短く
同く淡紅
色本ハ微
し青ミ帶リ
花の本ハ前
条と同しく葉
帶リ

同上表の圖



一種

通絲蓮

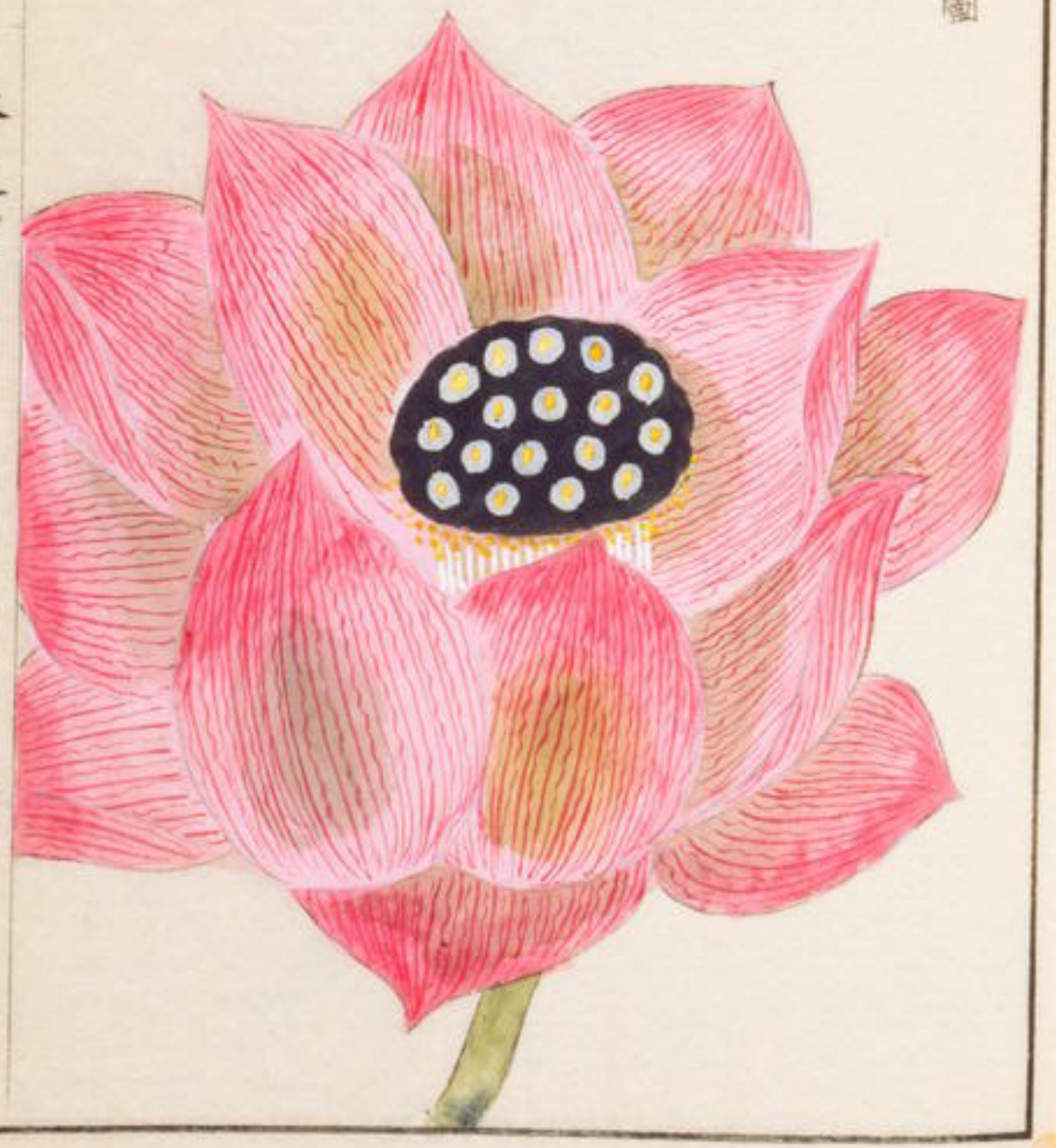
同上の圖
花瓣円く
肌に細かき
皺ありて
縮緬の如く
全脈淡紅
にして先に
紅を帶び中
に青色の斑あ
り

同上表の圖

一種

金輪蓮

同上の圖花瓣
円く全脈淡紅
にして脈紅色
先も亦紅色中
に微し青色
を帶つ



一種

通絲蓮

同上の圖
花の形前
条に似て
大に色も
亦同し

一種

佛足蓮

同上の圖
花形芍藥
亦牡丹に似
て外の瓣細
く中の瓣細
く本に蒂の
あるを牡丹
亦芍藥に
似たり全
躰淡紅に
して光紅色
なり

一種

天上蓮

同上の圖花の形前條に似て大小色も亦前条と同一

一種
玉繡蓮

同上の圖花
形亦前条に
似て中の綠粗
く色も前条と
同一花の本に
蕊あり

一種 玉繡蓮

一名 法華蓮

円上の圓花形前条に似 中の瓣細く 瓣をに先に 瓜のとき物 あり色は前条 より濃紅色之

一種 玉繡蓮

円上の圓花形前条に似て色淡し

一種

天上蓮

円上の圖花辨皆小く円く先ハ瓜の如き物あり色ハ前条より濃し実ハ房の外ニ出て直ヘり

一種

紅碧臺蓮

円上の圖

一種
錦蘂蓮
同上の圖

一種
錦蘂蓮

一種

錦邊蓮

一種

一種
肥後絞

一種
瑞香蓮

一種
天竺牡丹

一種

錦邊蓮

本草圖譜卷之七十四目録

果部 水果類

一種 不忍池班蓮 一
一種 蜀紅蓮 二
一種 金邊蓮 三
一種 何蘭陀蓮 一
一種 二重青蓮 四
一種 明鏡蓮 五
一種 緑紅白蓮 一
一種 六
一種 白蓮 七
一種 白芙蓉 一
一種 辨細〳〵白色の物 八
一種 白川侯蓮譜の圖 九

一種　青月蓮　一
一種　蟹蓮　十
一種　江南蓮　一
一種　感得蓮　十一
一種　金絲蓮　十二
一種　太白蓮　十三
一種　賜白蓮　十四
一種　真如蓮　十五
一種　天香蓮　十六
一種　天竺白蓮　十七

本草圖譜卷之七十四

東都　岩崎常正　著
男　岩崎信正　校
門人　小山廣孝

果部　水果類

一種

不忍池班蓮

白川侯蓮譜の図
花の形豐にして辨大
に数少し白色にして
淡紫の班あり

一種

蜀紅蓮

自園に養ふ物の
園花の形中輪にて
辨の數少く白色
に紫の斑あり邊に
淡紅を帶へり

一種

金邊蓮

一種

志村氏の園同書
に京の清水觀音境
内辨天の池中に有
り銀色にして金色
の邊ありといへり

一種

阿蘭陀蓮

白川侯蓮譜の圖花瓣粗く白色にて瓣の中淡黄色なり

一種

二重青蓮

同上の図
花形小く
瓣の先尖
り色ハ前
条と同一

一種

明鏡蓮

同上の図
花瓣円く
白色ニ付
前条と同
色なり

一種

綠紅白蓮

同上の圖花
瓣細く長く
白色なれ前
条と同色なり

一種

志村氏の圖花小く
瓣圓く白色に淡紅の
道あり

一種　白蓮　白芙蓉

志村氏の圖花中輪にして瓣粗く細く白色に微し青色を帶り
白蓮の類多しといへども全く白色の物少し青色を帶る物多し

白芙蓉

一種

同上の図
花瓣細く
白色不微
し青ミゆり

一種

白川侯蓮譜
の図漢蓮と
称する物の蓉
なり尋常の物
より長け短く
正円なり

一種

青月蓮

同上の図
花瓣圓く
白色ふ青
みあり

一種

蟹蓮

同上の図
花瓣圓く
先の方左
右より巻
り正白色
あり

一種

江南蓮

同上の図
花瓣円く
白色小微
し青ミゆり

一種

感得蓮

同上の図花大ふ
輪の先尖り全躰
正白色多し

一種

金絲蓮

同上の圖花瓣
円く白色に微し
青をあり

一種

太白蓮（たいはくれん）

同上の圖花瓣尖り白色ニ青（ゆゑ）ミあり

一種

賜白蓮

同上の図花瓣
尖り白色に微く
青ミあり

一種

真如蓮

同上の圖花瓣
圓く白色に瓣の
周り微し青を帶り

一種

天香蓮

同上の圖
花瓣圓く
白色に微
し青ミあり

一種

天竺白蓮

同上の圖
花形芍藥
に似て外の
瓣大に中の
瓣細く正白
色なり

本草圖譜卷之七十五目録

果部 水果類

一種 白芍藥蓮 一
同 滿開 二
一種 湘妃蓮 三
一種 天竺白蓮 四
一種 白芍藥蓮
一種 白万々蓮
一種 白万々蓮 六
一種 西湖蓮
一種 廬山白蓮 七
一種 嵩葉蓮
一種 白碧壹蓮
一種 每葉蓮

一種　大和錦　九
一種　君子小蓮　十
一種　茶椀蓮　十
一種　通絲紅蓮　十一
一種　雙頭蓮　十二
一種　雙臺蓮
蓮房
荷葉　十四
荷梟
敗荷葉　十五
衰荷

本草圖譜卷之七十五

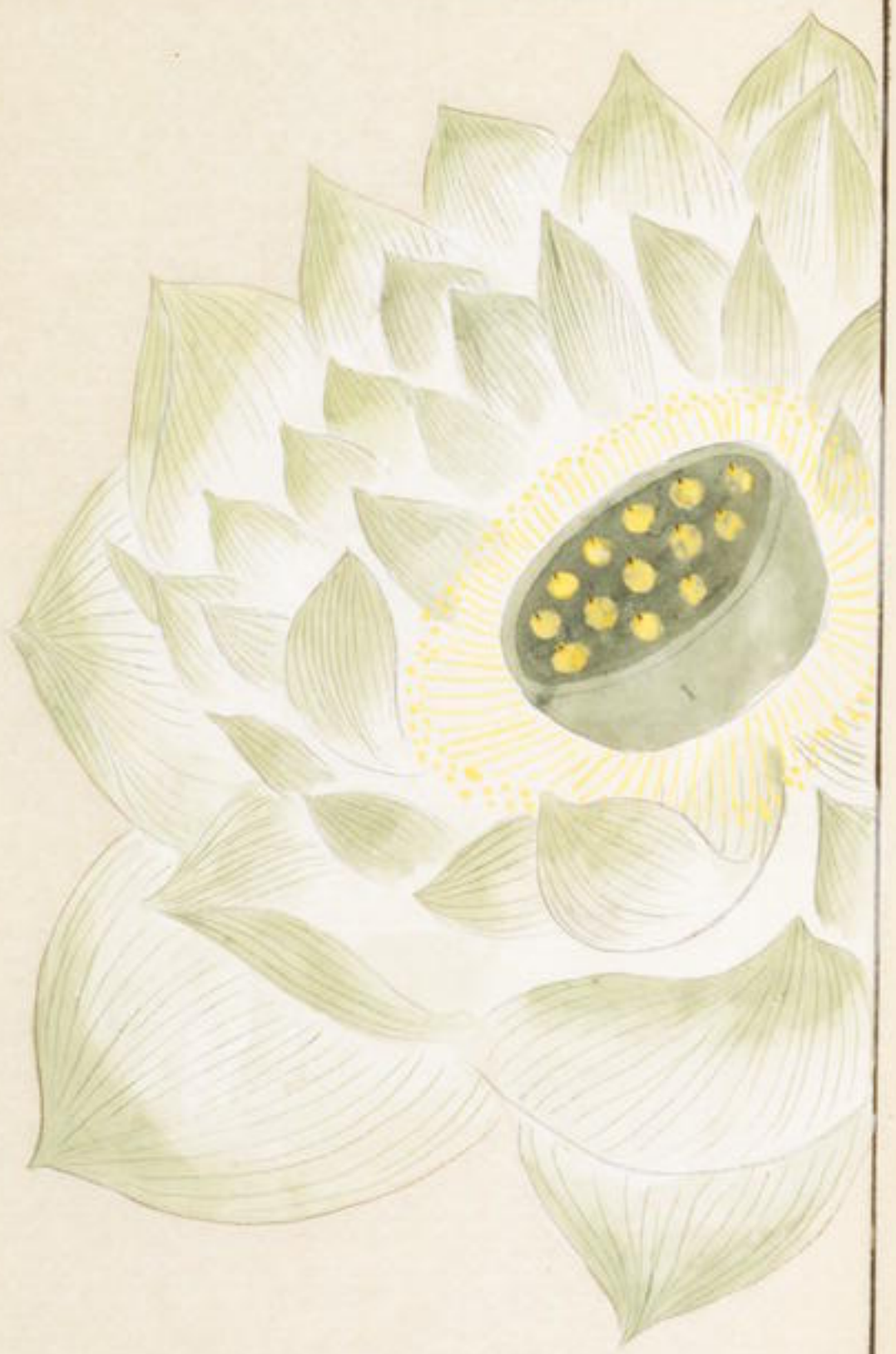
東都　岩崎常正　著
男　岩崎信正
門人　小山廣孝　校

果部　水果類

一種

白芍藥蓮

白川侯蓮譜の圖
花豐にして瓣円く
満開まゝ時ハ芍藥
の如く花の本に蔕
あるを亦芍藥牡丹
等のをとく白色にて
瓣の裏に青ゝあり



前條滿開の圖

一種

湘妃蓮

自園に栽る処の物
花の形荷藥に似て
外瓣大に内瓣細し
白色に微し　青しあり

一種
天笠白蓮

白川侯蓮
譜の圖花
の形芍藥
に似て内の
瓣共に尖
れり白色
に微し黄
ミあり

一種
白芍藥蓮

同上の圖花形前に似
て内の細瓣前条より
大く白色にして外青
内黄ミあり

一種

白万々蓮

同上の圖花形前条に似て白色に内外共に黄色を帯へり

一種

白万々蓮

同上の圖花形芍藥に似て瓣の先円く外青色内黄色を帯へり実の形導常の物に異ん実に房の外に出なり

一種
西湖蓮

同上の圖花形天笠白蓮に似て白色に内黄色外青色を帯へり実の前条に似て房の外に出たり

一種
盧山
白蓮

同上の圖花形白万々蓮に似て内黄色外青色を帯へり

一種

萬葉蓮

同上の圖
花形前条
に似て白色
に内外とも
に青色を帯
へり

一種

白岩壹蓮

同上の圖
花形西湖
蓮に似て
淡青色を
帯〻実ハ
房の外に出
て菊花に似
たり

一種　毎葉蓮

志村氏の圖全体小蓮の類ゆゑ花の形尋常の物に似て淡紅色なり花葉の茎の本に淡紅を帯へり

一種　大和錦

白川侯蓮譜の圖花小く茶碗ゝ其の類にして辨ハ円ゝ形ゝ淡紅色ゝ実も小く房中ハ三四顆なり

一種　茶碗蓮

日上の圖花小く辨の数少く先尖り淡紅色ゝ実ハ三四顆を結ひ花の本ハ緑色の蔕なり

一種　君子小蓮

日上の圖花形色ともハ前条ハ似なり

一種

茶碗蓮

志村氏の圖花葉ともふかさく葉の裏淡紫色花瓣円く淡紅く

一種

通絲紅蓮

白川侯蓮譜の図花葉ともに小く瓣細く淡紅色本に微し青色を帯へり芍薬に似て青紫色の蕊あり

一種

雙頭蓮

志村氏の図同書に武州草加の先加茂の民家の池中に産れとして花葉とも家々花の形尋常の品に似て一茎に二花並い生れ淡紅色之

一種　雙臺蓮

同上の圖同書に寛政十一年谷中三崎法住寺の池中に産れとゝり花形前条と同し

蓮房　金房　名物方言

同上の圖蓮の実の入たる蜂の巣の如き物

荷葉

はすのは

蘭山の説に初生の小葉をせにすと云これを荷鈸（鈸名）と云其次に出つる葉を稍大にして水面に浮ふをうきと云これを藕荷（鈸名）と云其次に出る葉は莖長くして水上に出るをたちすと云これを芰荷（鈸名）と云是は藕の節に両対して莖を出れ其一は葉其一は花なりと云

敗荷葉 所方

志村氏の園秋月の
至半盛半衰なり物
あり

衰荷　志村氏蓮譜　引白氏之集

同上の圖晩秋霜を經て
葉房ともに老して褐色に
変ぜる物あり

本草圖譜卷之七十六目録

果部 水果類

芰實 ゑし 一
一種 あまゑし 三
一種 かつゑいし 三
芡實 おにたき 五
慈姑 くわゐ 七
一種 おもたり 十
一種 ゑめひし 一
一種 おにひし 一
一種 ひしもどき 四
烏芋 くろくわひ 六
一種 ちりくわゐ 九
一種 やるゑおもたり 十一

本草圖譜 卷之七十六 十七

一種　うりかね　十一

附錄諸果

津符子　未詳
必思荅　未詳
甘釵子　おちんぶくるし　十二
楊搖子　未詳
海梧子　未詳
木竹子　ゐとう　十三
同　物印忙に載る所の物四種　十四
櫓罟子　未詳
羅晃子　未詳
榷子　物印忙に載る所の物　十五
夫編子　未詳
白緣子　未詳
繫彌子　未詳
人面子　未詳
黃皮果　未詳
四味果　未詳
千歲子　未詳
侯騷子　未詳
酒杯藤子　未詳
蕳子　物印忙に載る所の物　十六
山棗　未詳
隈支　未詳
靈牀上果子　十七

本草圖譜卷之七十六

東都　岩崎常正　著
男　岩崎信正　校
門人　小山廣孝

果部　水果類

芰實
ベカンベ 蝦夷　チリビユリユス 羅甸
ウアトルノーテン 和蘭　菱 本草和名引兼名苑　蕨蘖
水栗　薢茩 共同上　穿萍 名物方言　猪鳧
菱角 救荒本草　水栗 珍玩考引武陵記　舍利虎吒迦 梵語

所々湖水中に生ず水底に菱角ありて初夏苗を生し葉水面に浮ぶ葉三角にして淺鋸齒あり莖肥ゝ雨蛤の股に似て夏月葉間に黄白花を開く葉下に實を結ぶ形蒺藜に似て大なり雨角ありて刺あり嫩絲老黒形又梟の飛に似たり其殼を焼こなを刻し灰とぶ火いけの上品とし

一種　ゐめひし

種尾茄より来る葉の形にく
小白花を開く葉の間に實
を結ぶ四稜にして刺あり大さ
指頭の如し

一種　あま　くさ　ひし

實の形堅一寸
餘横二寸餘
形蝙蝠の飛る
如し褐色にして
條あり

一種　おにゐし　おとくひし

葉の形皆同く実四
角なり江戸不忍池
に多し

一種　わらゐし　ゐし

葉の形同く其実刺ふく
疱ちり其疱或ハ四或ハ
六或ハ八形状一なるべし
多乾て墜子に用ゆ

一種　訓しもとき

尾及より来る実より春月芽を生れ菱に似て小し
對生し節々根を生れ秋月葉の間に実を結ぶ形ちいろ
に似たり又あしたる蜘蛛に似たり菱角とハ大に異人食へ
ふれ

芡實　ミしふき 和名本草　ミつふき 和名鈔　おふハしゝ江戸　かつたひハし

いぢらハし 丹波　けとう 仙臺

茖 本草和名引崔禹錫食經　蔱 同書引玉篇　陰腹腸

天門精　天禹曜 同書引大清經

天川虫 同書引神仙服餌方

雁膳 通雅

鳧頭 正字通

菱弟 名物方言　雁喙實 三才圖繪

水陸丹 發明　湖芡 西湖志

雞頭實 救荒本草

芡實

武昌水根川下總及中山邊の水澤中に生ず葉ハ蓮に似て大さ三四尺初生微紋あり水面に浮ぶ面深緑色光澤あり刺多し背ハ紫色にして筋脉高く起て羅紋をなす莖ハ筆管の如くにして軟なり長短ハ水の淺深により漢にてハ其の莖を採り食ふ正字通に藕梢菜と名つく中細密數ありて蓮莖に同し根鬚ありて藕の如きにあらん六七月花あり莖頭一萼あり其萼円にして刺多く上尖り開く時ハ四瓣内紅紫色鳥の觜に似たり其梂漸く大にありて二三寸熟すれハ中に數十子あり形蓮子の如く黄褐色にして小く正円に大さ豌豆の如く殼を去れハ中に白肉あり此芡実なり

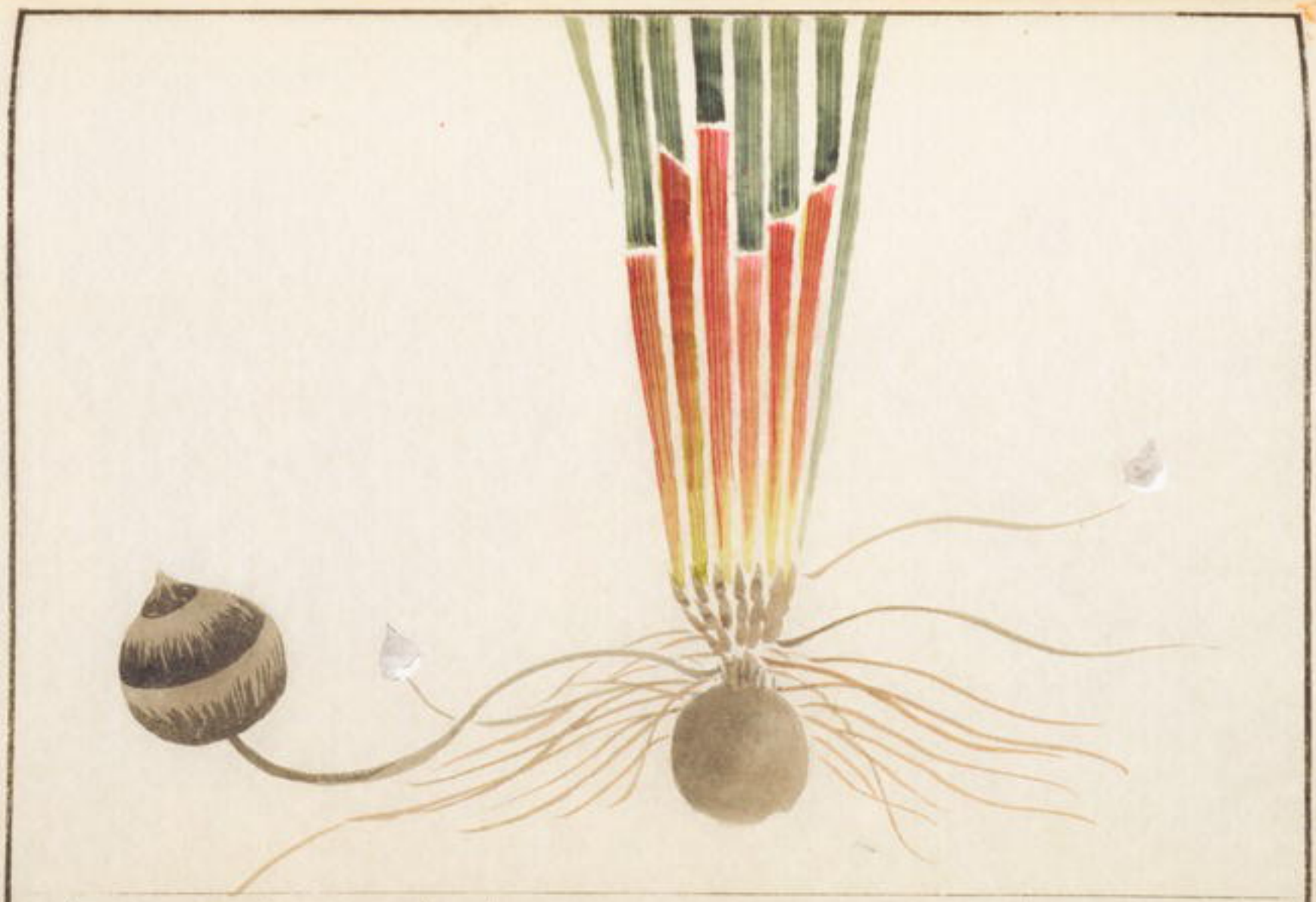
烏芋

くろくりひ　まふいつる 橘及　まるくん 同上

あかがまげ 仙臺　蒲薺 通雅　葶薺 本經逢原

水芋 本草和名引重名苑　玉銀 同書引雅要訣　鐵勒臍 叔荒本草

烏芋ハ水澤中に生ず苗葉燈心草に似て大に莞の葉に似たり細瘠頭尾齊く尖らけして円く中空にして白髓の節あり色深光夏月穂を生ず黒色白葉ありて長さ一寸餘根に鬚あり秋に至て根鬚の末に塊を生ず形慈姑に似て硬く皮黒色内甘し生熟とも食ふべし



蒜實 正字通
田酥 汝南圖史
煎搭草 救荒本草
水慈菰

慈姑
なまい 本草和名
くわい 和名鈔
くわゑ
ちろくわい
ほろわれ 越前
地栗 領江府志
大蘇 通雅 葉名

慈姑

水田に栽せ葉は剪刀或は燕尾の如く一根叢生し夏月稀に花あり三瓣白色穗に枝を分ゝ開く秋冬開根傍に白根を土中に延て末に塊を生ず円して扁く青綠色にして一つの芽あり長さ一寸許り之

一種　吸田くわゐ　まめくわゐ

構及吸田村より産する物なり形状慈姑と同し夏月葉の間に莖を抽んで三枝を分つて花あり三瓣白色大さ六七分黄綠色の蕊あり根塊又円く大さ指頭の如く長さ正円をのぼり

一種　おもふる　和名鈔に渾阿ト書きたるは誤なり　をなくわゐ

エルベンツトングト、和蘭　野慈姑　東医宝鑑

田野水中に生ず葉は慈姑に似て小にして細く花又小なり

一種　やゑおもふる

花の形穗の如く白色蕊なし葉は野慈姑の如にして頗る肥ゆ前条共に根に小塊あり小指頭の如にして長く其大なるをもつくわひと称して賣て味ひ苦し

一種　うりかと

池澤浅水中に生し葉は韭葉に似て短く夏月三枝を分て花あり野慈姑と同し底し苗の形甜瓜の皮を竪に刀きゝるに似て小く故に尾及にてうりかとと名つく根塊きりめるに小く吸田くわゐ又小なり

一種 吸田 くもね

一種
うりかは

附錄諸果

甘釵子
おれんはくるう

是物舶来にて形胡桃に似て皺紋ありて硬し

木竹子
蒲桃 滇南雜記
葡桃 臺灣府志
香果 月上

香花果 中山貢問

木竹子

近來琉球より來る葉狹長枝葉對生し高さ四五尺夏月枝の梢に五七の花あり五瓣淡綠色白花の蘂長ふして形金糸桃（ひようやなぎ）に似たり後実を結ぶ枇杷に似て大に熟せれハ黄色味ひ甘し内中に核あり又枇杷に似たり嶺南雜記に形如蠟丸大如桃高丈余花開一簇如針蘂長寸許五月熟色青黄中虚有核如彈丸搖之有聲内鬆而甘と云り

一種　物印忙に載る所の四種

山嶺南雜記に一種名香果形小円長内鬆甘香異常と云る物ハ此なる歟

同上

榷子

ヒキユヱロホルテ

和蘭

物却忘ホ載る
所の物

蔄子

物印忙の載る処の図

靈 水月上果　靈前へ備へたる諸果なり

本草圖譜卷之七十七目録

香木類

柏	かく	
叢柏 曰上	あらがしも	三
一種	しゆくたん	四
一種	東福寺の しゆくぶん	五
一種	かきしぶ しのき	
一種	しむ	
側柏 解集		
一種	漢種の しゆくたん	
一種	江戸ふさつぶ しゆくぶん	
一種	しのき	六
一種	ひめしのき	七
一種	ムしゆく しむ	八

一種 ちやぶひも

一種 かわめとひも

一種 ひめあをおろふ

一種 こうらひも

一種 おきなふ

花柘 餅集 まるのぶひも

一種 むらさきひも 十五

一種 むらさきやどう

一種 さやもちひも 九

一種 あをおろう 十

一種 とらび 十一

一種 さわふ 十二

一種 くろび 十三

一種 かすらくもひも 十四

一種 ふうれんもひも 十六

一種 いとおぎ 十七

一種 ねきさし 十七

一種 ぶろおぎ 廿

一種 まいねも

一種 まれねも

本草圖譜卷之七十七

東都　岩崎常正　著
男　岩崎信正　校
門人　小山廣孝

香木類

栢

かへ　和名鈔　あてかしも　両面　むりま　上又

堅剛　本草和名引葉花苑　椈　同上　鞠　通雅　參天　名物方言

栢の類多し草に栢と称する時ハ側栢扇栢花栢等を通して云ふ其品類下に出れ藥方に栢葉栢子仁なとゝ云時ハ漢種の側栢を用ゆへし其余ハ集解の説にてハ藥用なれとゝへとも功能なきことに見ゆ

漢土より渡り官園に栽させらる今喬木となりて高さ二三丈に至る葉ハ常のこのてかしはに似て頗る細にして薄く扁栢の葉に似て硬く枝粗く直立するなく側栢の名あり新生の葉の本に五瓣淡黄色の小花を開く実を結に形あのてかしはの実に似て大さ指頭の如く円く中に子あり黄褐色にして大さ三分許り松子に似たり雷斅の説に其有子円葉成花如大花雲母葉皆側葉上有微赤毛者宜入藥用といへり

叢栢 解樂　このてかしはと　手掌栢 紹興有志

此品世上最も多し万葉集に此手かしはの両面といへる物く樹叢生して高さ一丈許りに過ぎ葉をもちて生して掌を立てる如し背面緑色なり故にふたおもてと云此樹側生するなく側栢の類とふたへし雷斅の説に叢栢葉其樹緑色並不入藥と云り叢ハ叢生して喬木ならぬ名あり

一種

漢種のゐやくだん

香栢 遵生八牋

漢種と称せるとも詳かれ
樹葉ともに扁栢に似て面背
ともに綠色花実ハ側栢の
如し

一種

ゐやくだん

大樹となる葉ハこめて
かしきに似て細く枝粗
く木理檜に似て堅く
あれを焼ハ香気白檀
に似たり

一種

江戸にて[illegible]くたんと称せる物

葉の形側栢に似て粗く枝長く上に向て甚だ扁たり

一種

東福寺の[illegible]くたん

京都東福寺にある漢種の物と傳云り枝葉とも扁栢に似て甚粗く細く長し幹ふられ左りへ了戻て生れ木理白檀に似て微し香気あり真の白檀の類にあらざる物也

香栢 漢武故事

左紐栢 事物甜珠

一種

ゐのき

扁栢　本草彙言

俗に檜の字を用ゆ檜ハゐのきにあらんとゐのきハ扁栢と共木をあらはしくはり合せる時ハ火出るゆへゐのきと云諸外皆あるとゐとも信州木曽及び上野の物を上品とは此内に木曽の麝香山と称は總て ゐのきの葉の形花栢に似て厚く側栢より肥なり面背ともに緑色之実ハ杉の実に似て至てかく豆の如し樹皮赤黒にして竪に割れあり此皮にて屋上をふくこれをゐわらぶきとゐふ

一種 かまくらひのき

葉の形扁柏に似
密にちゆかひもよう
粗く面に緑色にして
背に微し白し

一種 ひめひのき

葉の形かま
くらひのきに
似て細ある
実も形同し

一種　ひむ

葉の形さいかちに似て密に枝下へ垂れり材白くして薄黄を帯ひ綱り強く器物を造るに用ひ物理小識に固有水杉葉似垂栢其材剝之可卷作龍蛇等器名曰捲木甚堅と云是也

一種　くさゆく　ひむ

葉の形扁栢に似て厚く短く枝粗く細き枝少く放生も凡ハ長くして形孔雀の尾に似たり夏生をる物あり

一種

ちやわひむ
ちやさ

葉の形扁柏に似て厚く
深緑色にして甚く密く
数十年に経るものは喬木
に至る是本愛生なる物也

稜 栢 事言 平言

一種

ちやもむも

葉の形ちやわ不
ひむより厚く
至て密なり

一種

ツなあまひも

葉の形ちやゝ不ひもに似て厚く粗く枝葉有おゝれして屈曲せり

一種

あまなかうおかなのき

あて加　ちかく

羅漢柏　江陰縣志

仙人柏　珍玩考

諸豆皆あり野豆日光山赤沼の原湯元の梁最多し葉生て大に硝中の丸葉ふるもの之扁くして紋脈鮮甲の如く面の深

綠色背の白綠色冬刈て喬木に至る江陰縣志に柏一種葉大而遍曰羅漢柏其木理堅と云り

一種

ひめあまなんふ

葉の形前
條の物より
細く円く
扁柏に似て
粗ー

一種

ちゝこび　ちゝこく
あまなび　あまなんふ

ちゝこび　ちゝこくともに
村の名く山地にあり
てはあまなびとつゞ葉
の形羅漢柏に似て
狹く枝繁く生れ材
は扁柏に似て白く
木理粗ー

一種

こうらびむ

円葉のあさをあらうらとも云葉ハ大さ訓ニ叩ゝやうに似て短くたまり形ちやかひとに似たり

一種

さわら　あてび　千頭栢　本草微要

葉の形扁柏に似て粗く面緑色背白し枝もまた粗く樹皮ハ訓めきの如し材ハ杉に似て薄紅を帯ふ諸器物に造る

一種

ぢさわら

葉の形前条のさわらに似て薄く細く背は白色之材は白く少し薄黄色の処もあり質柔にして材用に充るとも久しきに堪ぬ

一種

ろろび

ろろべすき

葉の形扁柏に似て太く色深緑色にして黒しなり樹皮の扁柏より厚し木理の杉に似て黒しあるなり又雲頭の如き樹あるなり黒しあるを上品とす

花栢 集解

樹直立して高木に至る葉の形扁栢に似て甚細密にして小雉尾草に似たり

雷敦の説に花栢葉共樹濃葉或朶無子と云へり

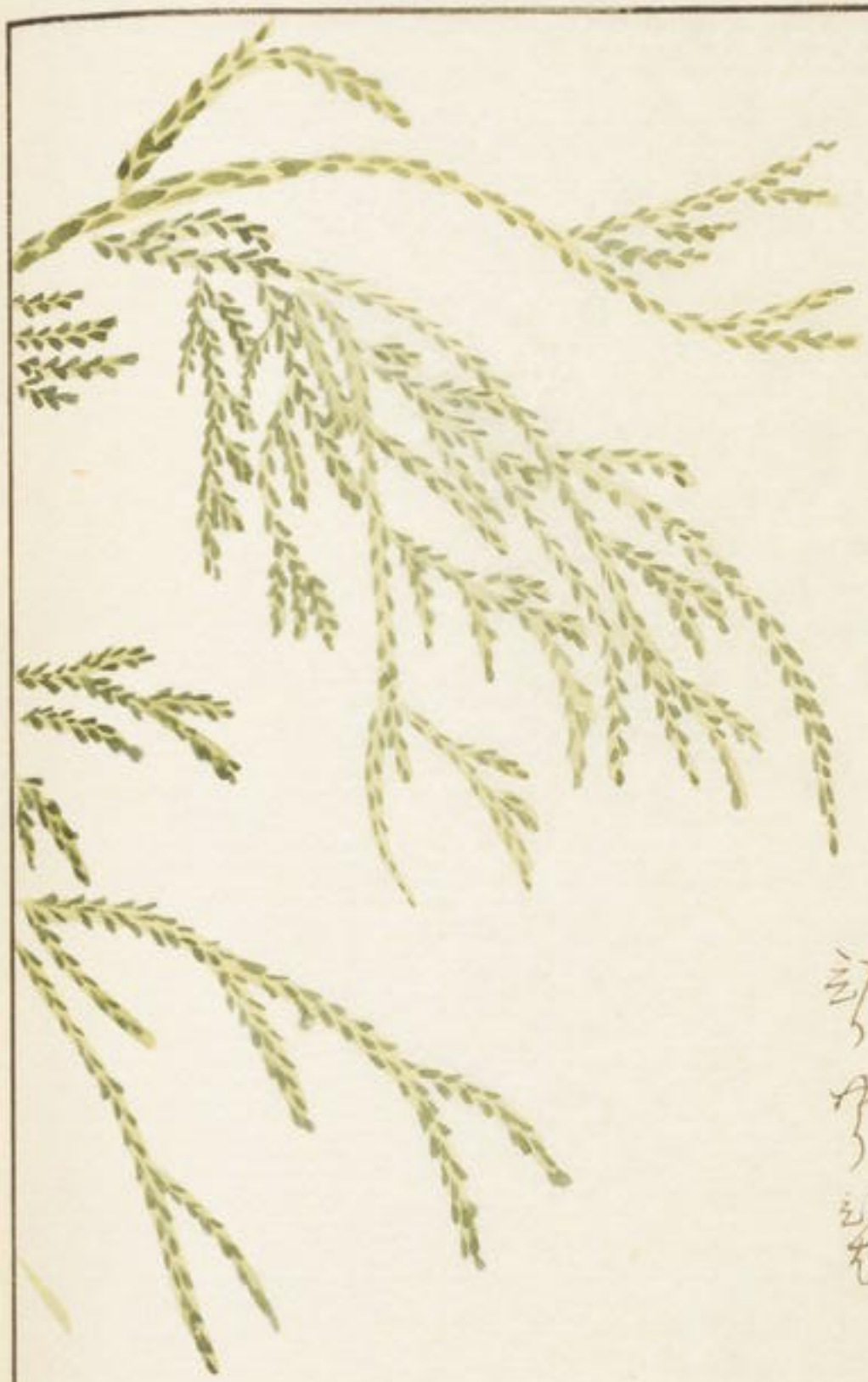
一種

ぎりちく記ハ

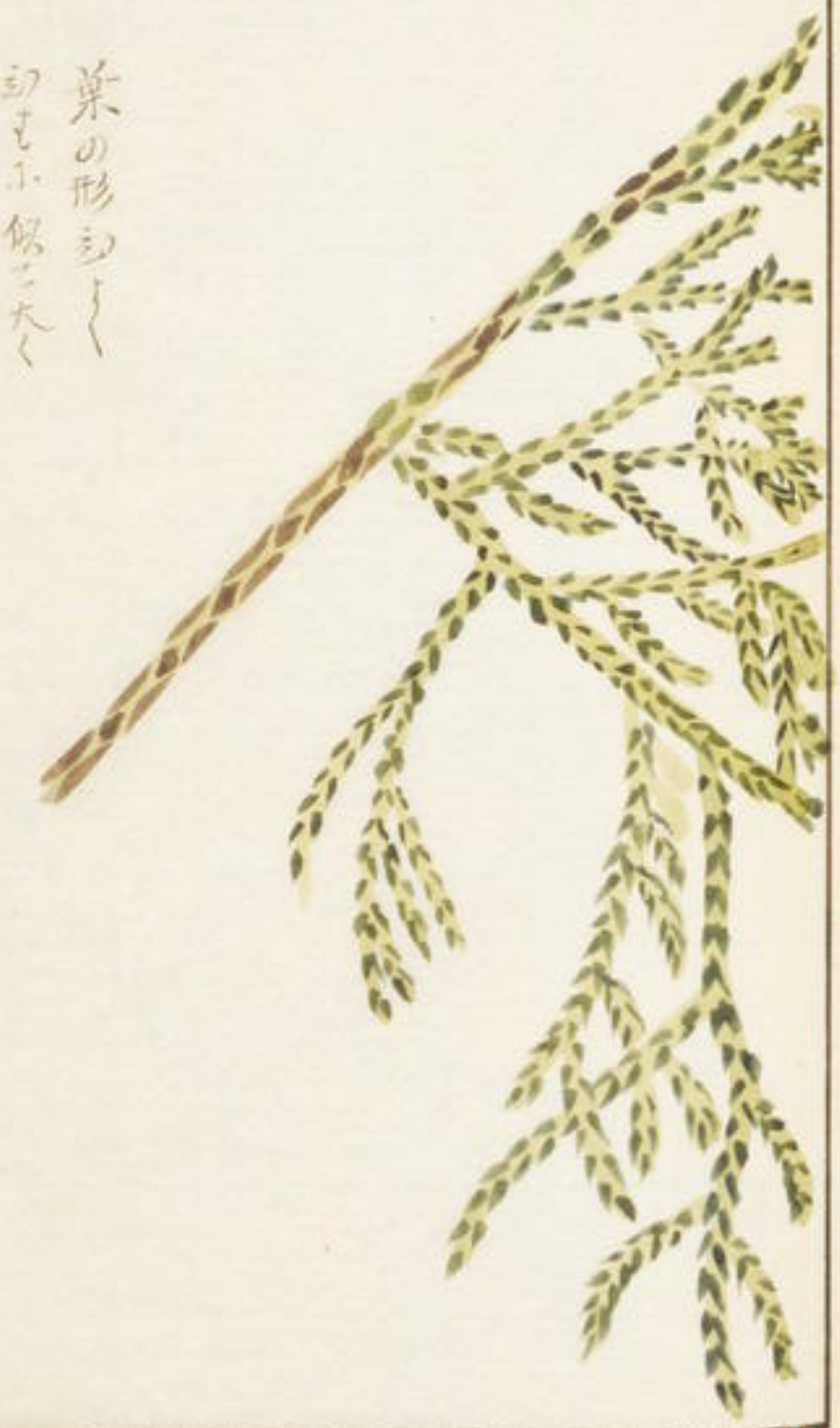
うらうも

柳栢 通雅

常陸筑波山に自生あり幹ハ剛く直立し葉ハ形いと杉に似て長短雜り又花栢の如き葉も雜る葉の先皆下へ垂れ枝ハ下垂せり



葉の形ゆりよく
ゆりも小似て大く
粗く黄緑色に
枝條柔弱にして
下垂す



一種
志ゝれ
刻む 尾
見
ゑん刻ゝむ

畬栢 物理小識
瓔珞栢 通雅沙南圖史
柳栢 中山質問
葉の形刻ゆくぶんに似て
肥大にして粗に羅漢栢に
似て涸りられ枝葉下垂を
ちて四五尺に及ぶ秘傳花
鏡に枝葉俱垂下宜栽庭
際無花有子と云へり

一種

[illegible]

枝葉の形いと
[illegible]に似て短く
粉緑色之此も
[illegible]
[illegible]の枝に変生の
因て名つくりやう
[illegible]の寄生の[illegible]
[illegible]

一種　いとあき

常五筑波山に自生あり
葉の形[illegible]に似て硬
く鱗甲あり柏葉の如き花
絶るなく梢の嫩苗
皆下垂して糸を乱
する如し形ゆゑやく
[illegible]に似たりいまだ
[illegible]いふも形類に
あらず実の形全く
柏類なり

一種　ねまさし　たくしま　常見高天ヶ原
もろまき　曾草歸來　閑樹錄

ねけのこ　松前土人此実を好て食

ヘホウ　蝦夷

杜松　泉及府志

常外上總房及奥及等にあり　又甲及山中にも多くあり　木の高さ一丈許り
持て一枝葉繁茂し葉の形おなくたんに似て硬く長し枝も数生せし
直上し秋月同き実を結ぶ大さ黒大豆の如し熟すれハ紫黒色となる
香気あり泉及府志に杜松其葉如杉而小尖勁如刺木如松而文細其色赤亦有為柱者と
云漳及府志に通志曰葉似杉而小尖勁如刺木似松有文と云是也

一種　そいねあ尾品

ねあそあき　曾平脯菜　同櫛餘

いそ杉孔あき　同上

尾品山中に多く自生あり
藥圃櫛餘には海辺巖
の間及砂地にもありといへり
高さ漸く一二尺枝條延て
地上に臥れ葉は前条のね
つさしに同じ実も又酷し

一種　わろもぎ江戸

そなれよろ肥前　こめむろ豫良

ふなれもぎ上州　いぶまつ

かぶまつ相良　こむろ江良上野

こもろ伊豆　ねつこむろ信良

綠杉通雅　ニンペリコス　屈旬

ケ子ーラルボーム　荷蘭

ウアクトホルテルボーム　門上

杜松の類にして枝葉杜松に比せば小柔軟にして下垂に実は形柏の実に似て小さしテリアカ方中用ゆる所のケ子ーラル即ち是も世に杜松子を薬用とせども西洋本艸の図を見て其然るを知へし

一種　よれねぢ　尾及

くすり

杜松ハ寒生なれ
物ハして枝葉
まゝ杜松ハ同し
葉細生ニ而れ
り如し

本草圖譜卷之七十八目録

香木類

檜 集解	はまびやくしん	二	一種 まいしやくしん 三
樅 集解	もみ	四	一種 ろんこうもみ 五
一種	りうせん		一種 うかしろもみ 六
一種	うかしろもみ		一種 ちろもみ 七
一種	おらんだもみ		一種 だけもみ 九
一種	あちぎ	十	一種 つが 十一

一種　とうつか　十二
檜栢集解　かまらいつふき　十三
一種　いふき　十四
一種　サヒナ　十五
一種　十七
一種　十八
一種　さかうのき
一種　とうつふき
一種　ちやほうつふき
竹栢集解　あき　十六
一種
一種

本草圖譜卷之七十八

東都　岩崎常正　著
男　岩崎信正　校
門人　小山廣孝

香木類

檜　集解

たき　しゆくすん　しゆくすん　しゆくすん

かうひハ　刺柏 通雅　枯子松 同上　結子松 同上

百葉仙 事物紺珠　檜松 汝南圃史

時珍の説に柏葉松身者檜也と云正字通に檜葉似細杉幹如柏と云是人家庭際に多し栽り樹皮柏のとし葉の形杉に似て細く円く先とがりて人を刺れ

一種

まいおゆかしん
そなれ　江戸

矮檜　事言　平言

樹直立せし地に
蔓延し葉ハ生き
おゆかしんに似たり
人家庭際に栽へ
又立花に用ゆる也
そなれの名松なり
杜松等にてはるかへ

混し易く大和本
草にそなれとハ
海辺にありて砂に
れゆるとふ義なり
とあるとこれハとふす
の通石とあれなん
一物とおしかし

樅 集解 もそ

アヒースマヨル 羅甸
クキスホリヲ 菌蒔

鳳尾松 通雅

時珍の説に松葉柏身者樅也と云此物にして樹高く直上し数丈に至る樹皮薄く灰白色葉は樅に似て硬く先裂てくさこの如く実毬をなし松毬に似て長く大なる物は一尺許りに至る

樹葉とすれ前条に異なれ唯枝條下垂するを長し

一種 ゑんこうもみ

一種　まつせん

とがのをもこ

しらつが

しらもこ　駿豆富士

葉の形樅に似て甚細く蜜にして末鋭なるは背に白色を帯ふ実の形やしぜふしに似て大さ杉の葉の如し加豆に産はる物は地を這ひ居り

一種

うらしらもこ

日光もこ

ふれもこ　天台山

野豆の白根山にあり葉の形とがのをもこに似て疎く又きがるに小し短く背白く夏月枝に花を生ぬ赤色にして最も美く

うかしろもミ

枝葉の形梗に似て短く
葉の先見れ背粉白色
なり

一種

しろもミ

枝葉ともに
前條に似て
面てうか粉白
色に微し緑色
を帯へり

一種

おらんゆもこ 江戸

ゆらこ

とうかのたち 大和本草

野外日光山に自生多し樹ハ杉に似て高く直上し葉ハ柾に似て長く
尖りありて密に附き又羅漢松に似て長し枝の梢に圍り三寸ばかりの
大なる毬を結ぶ形松の子に似たり此樹本邦自生あれども今世上数行
するものハ元琉球より来る因て琉檜と名つく大和本草に虎の尾ハ佳
木なり日向霧嶋山に多し葉ハ杉に似て大にして短し味ひて少し松に
似たり葉あらきを又松に似たり葉の鋒尖れり有大毬長さ数寸松かさに似
て長大なり松類なり此樹如檜皮羅漢松可為器材其木理佳材なり為器為掩蓋
可也と云

一種

たけすぎ　まつもた　とうむ
さよらしやまし　別尻　ゑそまつ　日名あり

葉の形まミの如くにして末へ二つにおゝれ甚く細にして短く杉の如く
実もまゝ頗る杉の実に似たり樹皮落葉松に似たり日光にてまげ
ものに作る木の肌至て白し

一種

あらうき　椒の木 和名抄　一位のき　おつこ 越後
あつうのき　こねそう 信州　みまもみやくぶん 西国
おんこ 和名前　タルマニ 蝦夷　ヲルマニ 上月
朱樹 唐類函　土蘋木 大明一統志　朱松栢 説文

樹直生して二三丈に至る葉の形樞に似て短く葉繁く附てきやう木の如く春月枝の先に小さ白花を開き実を結ぶ形豆に似て小く紅くして南天の如此樹諸品同にありと又とも飛彈の位山の物を名産とは木理正めにて肌赤く美く香気あり数尺の物にても末より割ハ根本まで直ぐにさける以て筋に作り又水毒を解する少く水鹿の蓋とし又湯殿の板とす又楊弓の矢とす日光よりハ箸に作り出しありしきのもしと云加賀よりハ出つ牙枝に作り出れ先輩の説に大明一統の土蘋木ありと云り此樹一位の木の名ありといへとす

櫧の木に似たる木の一位とハ同名異物なるべし混すべからず

一種　つが　樛　甲集

樹直立し皮少赤く葉は樅に似て短く先尖らは長葉と短葉と交り樅又榧の如く整列せは四方に散生は室も樅に似て小さし六七分許りあり此材樅にして上品又枝となし器に造り大樹には木理美なるあり此類水につきて久しく汚れ古ぶへようとかと称はるものとか先此物と同物ならん考ふるにとかと称するものは此物より葉粗見也

一種　とうつが　つかもと　たうつがもと　土　たうつが　甲　汲

野及大澤村御殿跡にあり葉は淡かに似て三稜あり先は尖りて杜松の如く刺刺し香気松の如し故に若水の説に古人所謂一針松なりと云へり毬の形樅に似て短く小なり

にが

一種

きゆらのき
きゆりぶく

土蘇木の一種にあるものと又家庭際に栽り葉の形櫃に似て短く密く木理し黒ミありてきゆらの木理に似たるゆへ此名あり

檜柏 集解 ひまろかつふき
ひまきゆやくしん
ひふき
ミきあか

二色檜 通雅

血柏 汉南圖史

混柏 中山質同

時珍の説に松檜相半背檜柏也と云物中に相其録倉名産なり樹高さ二三丈に至る皮は杉に似て赤く又木理の赤し故にしきあかの名あり葉はふりのに似たる葉とむすしむすに似たる葉とあり生し葉光なる也

一種

とろいふき

形状前條に似て
唯ともうかに似たる
葉多く細くかしひ
まに似たる葉少し

一種

ふき

葉の形状
ゐの木に似
て細く密し

一種

ちやぶつぶき

形状かまんぞ
いぶきに似て
枝葉ともに矮
生あり

一種

サヒナ荷蘭

コニヘリユス羅甸

近来蘭人持渡り
本邦に栽由葉の形
檜柏に似て嫩葉
はかまんぞいぶきの如
人老是れハ杉に似
て蘭方の医家此
物を薬用ル

竹栢 集解

雅眉竹

雅通

形ぎ　たらふしば

ナケヤヤポニカ　荷人

集解に竹葉柏身者謂之竹栢といへり物之和又春日若宮入幡山に多しと云其今幣及備中豆及西国又入丈島等にあり武及近郊にても新田の往地に有物を大樹とは葉の形鳳尾竹に似て潤く厚くして対生して四時凋まは花の形松の花に似て集り開く実へ円くして豆のとし此種類年々に生し花ゆへて珍説は

一種

葉の形竹の葉に似て二寸許り幅一寸許り円くして先少し尖り面背ともに深緑色なり

一種

葉の形前條
にて前条より
ハ小ちり

一種

葉の形尋常の物に似て細く尖り
竹の葉の如く面背とも深綠色也

一種

葉の形前条に似て細く先尖り面背共に深緑色なり

本草圖譜卷之七十九目録

香木類

松　まつ　一
一種　あひくろ　三
一種　ひとまのまつ　五
一種　しらかまつ　六
一種　しらかりまつ　七
一種　さかりまつ　八
一種　くろまつ　二
一種　かしまつ　四
一種　ひとまのまつ
一種　しやのめ
一種　かれそけまつ
栝子松 集解　さんこのまつ　八

五鬣松 集解 こまつのまつ 九
一種 いはねまつ 十
一種 ゆめこまつ
一種 まつまのこまつ 十一
一種 たかはしこまつ
一種 ちもちこまつ 十二
一種 つまりしろこまつ
一種 かむろこまつ 十三
一種 あかまつ 十四
一種 せんさいせう 十五
一種 むらこんせう
一種 こうきんせう 十六
一種 ちつちしまつ
一種 せつふさ 十七
一種 しゆれまつ
一種 りやうのひけ 十八
松脂 まつやに
松節
松諸 ちやん
松葉
松花
木皮
松實
艾納
松蕈
杉 すぎ
一種 かむろすぎ 廿
一種 なますぎ
一種 つさりすぎ 廿一
一種 ゑんこうすぎ
一種 ゑむろ
杉菌

丹桎木皮 附錄 不詳

本草圖譜卷之七十九

東都 岩崎常正 著
男 岩崎信正
門人 小山廣孝 校

香木類

松

まつ　色無草 藏玉集　おきなぐさ

ときはぐさ　とちよぐさ　ぬくれぐさ

むつこぐさ　たむけぐさ　くもりぐさ 以上 同上

むつよぐさ 廣塩草　ちよき　ちゑぐさ　こやこぐさ

めきましぐさ　あとゑきぐさ　ゆうかけぐさ

延喜草　百草 以上 同上　霜下傑 典籍便覽

髯翁 廣東新語　秦大文 名物方言　蒼顔叟 群芳譜

叢木 通雅　支離叟 名花譜　永青龍芽 名祖全書

萬丈龍芽 明　止竽 梵語　ヒユニユス 羅甸

ヘインアップルホーム 加印忙 荷蘭

右に上る物ハ總て松の惣名人大和本草にまつハたもつの意上畧くもとまと通れ久しく壽をたもつ木なり火記龜策傳を引て松柏為百木長而守門閭とつゞり雌雄ありて雌なり物ハ其葉美なり幾内に多しと云ひ故に松蕈 幾内ゆゑ多く出雄なる物ハ其葉粗し雄多き地より茯苓多く出つ大樹とあれハ樹心又根又節の中に赤色なる処あり これを幻ぜと云里家山にこれ燒に用ゆ又たいまつとなれ又牙状に作り用ゆれハ齋の葉なりと俗に云ひ年々に奇品を生し数十種に至今図なる物ハ其一二を載るのみ

一種　ふろまつ　黒松 說鈴

俗にあまつと称する物にして樹高大に至る樹皮鱗甲をなし黒褐色にして葉し葉長さ三寸許り深緑色春の末ことゝを生し其元に花を開き実を結ぶ圖如し

黒松と赤松と
相半して樹皮赤
黒色黒松より
ハ鱗甲少し細
く薄し葉も少
し細し

一種 あいぐろ

一種

かしまつ

常州鹿嶋に産れ形黒松に似て葉長く剛く上に向ひ生れ此樹異にして根の本より切ても枝條も生れ以て奇品とふれべし

ひとものまつ

奥州に産れ此物真の一針にあらず二葉合て一葉に見なれども共る処に二実あり

一種　しゞかまつ

葉の形黒松に似
半面緑色半面白
色ふくるゝ

一種　しゞかまつ

下野古河に
産し葉の形
黒松に似て
全く一斜の物
く

一種

むやのの

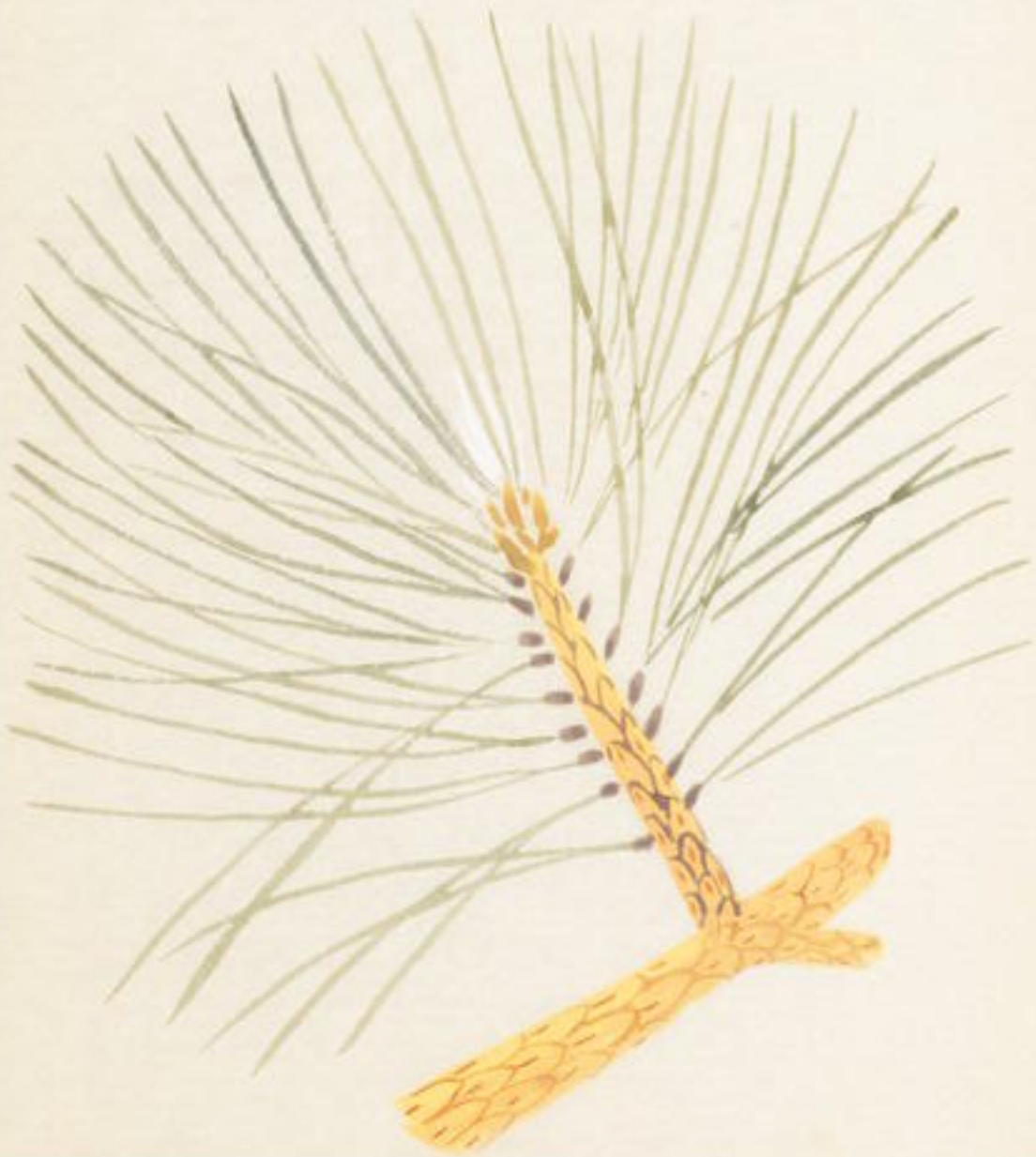
葉の形黒松に似て
葉の半白色にして光
日傘の如し

一種

むもふりまつ

白松 華夷彦

葉の形黒松に似て
葉の背面とも白
枝ちるが如し



一種

さかりまつ

形黒松に似て
ミとり主はる時
より下に のぞら
て延は夜條下
舎は軸を以て
叩け上に向ハ
しむ

一種

かたそげのまつ

葉の形状黒松に似て
枝の半辺に葉を生ル

栝子松 集解 さんごのまつ

こうむのまつ

三針松 海栝子集解

孔雀松 同上

三鬣 汝南圃史

奥州末の松山にあり形あいろうに似て一本より三葉を出る田村氏の説に奥州方言ひのこまつと云ふ三針と又江州唐崎の松も二針あり最も両針の間に一針ありといふ

五鬣松 集解 ごやうのまつ

五粒松 海栝子 絡下

五鬚松 泉州府志

五釵松 瀆碧 類書

最寿常の五葉のまつ之葉細く短く黒松に比せれば柔らく

一種

いわねまつ　あいづこまつ

せんだいまつ　江戸花戸

ろかね　越後

そのまつ　尾州

ちもりまつ

だけまつ　勢州

千歳松　伊勢花鏡

加州白山郡別中禅寺奥州會津信州草津御嶽山勢州嶽田州金峯山越後の高山等に産れ葉の形状もいまだ其葉の形状に似て枝換に近引其地に附く起ます張を生れ

一種

ゑめまつ

葉五ツ出して
ふかみ松と形
同山にはゝ白
色あさしとの

一種

ちぐまりぐまつ

葉五針出して
尋常の五葉
のまつに葉
短かし

一種

たかまつごやう

葉五針にして
尋常のごとく
ま色少し薄
く細ケに短し

一種

たかまつごやう

葉五針にして
形尋常のごと
やうの如く全緑
白粉を帯ぶ

一種

つまじろごやう

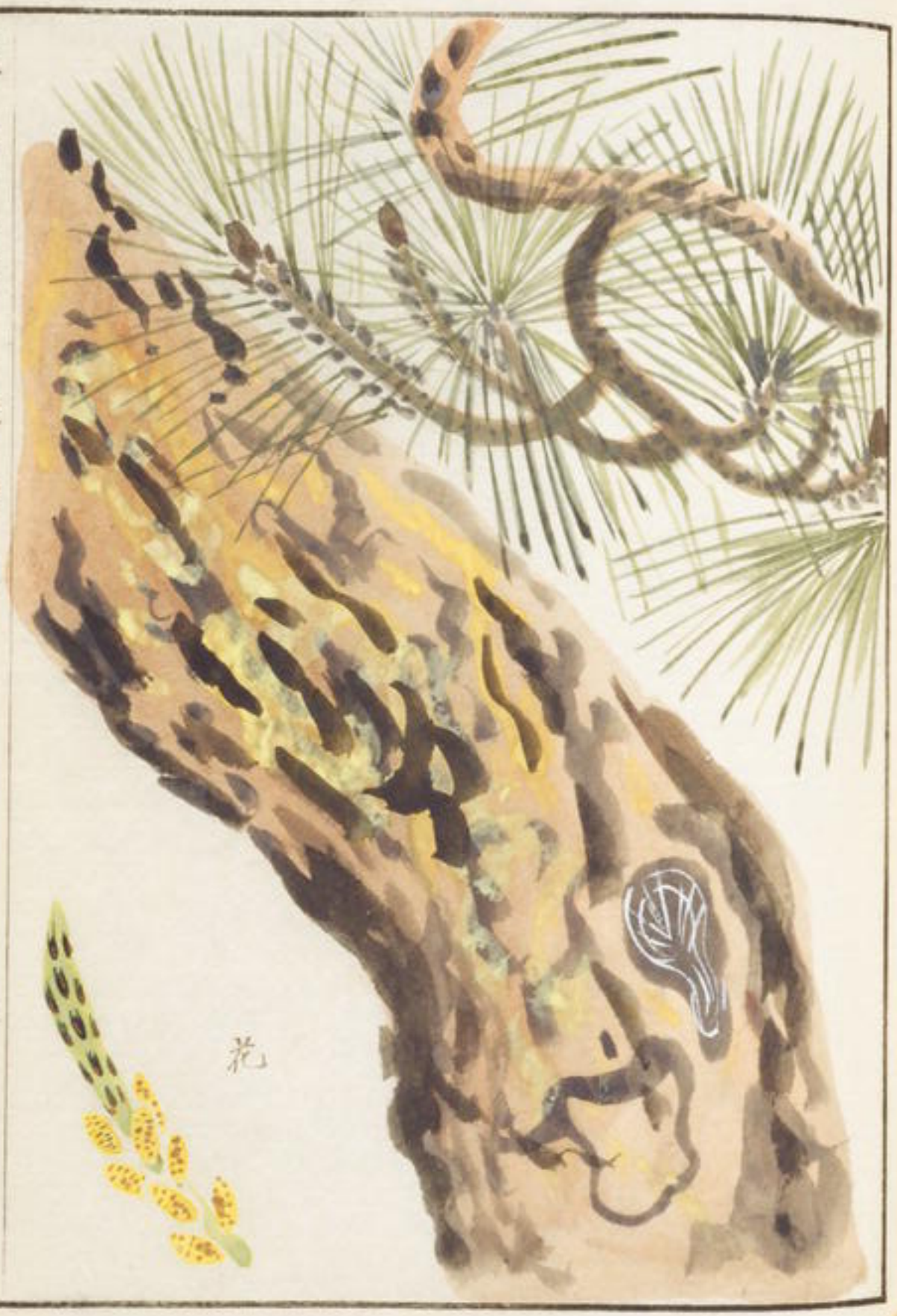
葉五針にして
形常のごやう
の如く葉の先
春芽出しあり
初夏まで白く
秋に至て全く
緑色となる

一種

かあろごやう

からこ

葉五針にして
了戻るもの
之此葉より
変生するもの
あり



一種

あかまつ

赤松 栗花評註

朱松 上同

樹皮赤褐色にして鱗甲ふく皮薄し葉も細く短く柔又枝も黒松より繁く實も又多く結へり

一種
さんぐわせう

性質松ふして葉の形も
黒松の如く少短く唯実
生ず二三年ふて越る
結ぶと一歳 きの如し
此物 前ふ云千歳松とハ
同名異品なり

一種

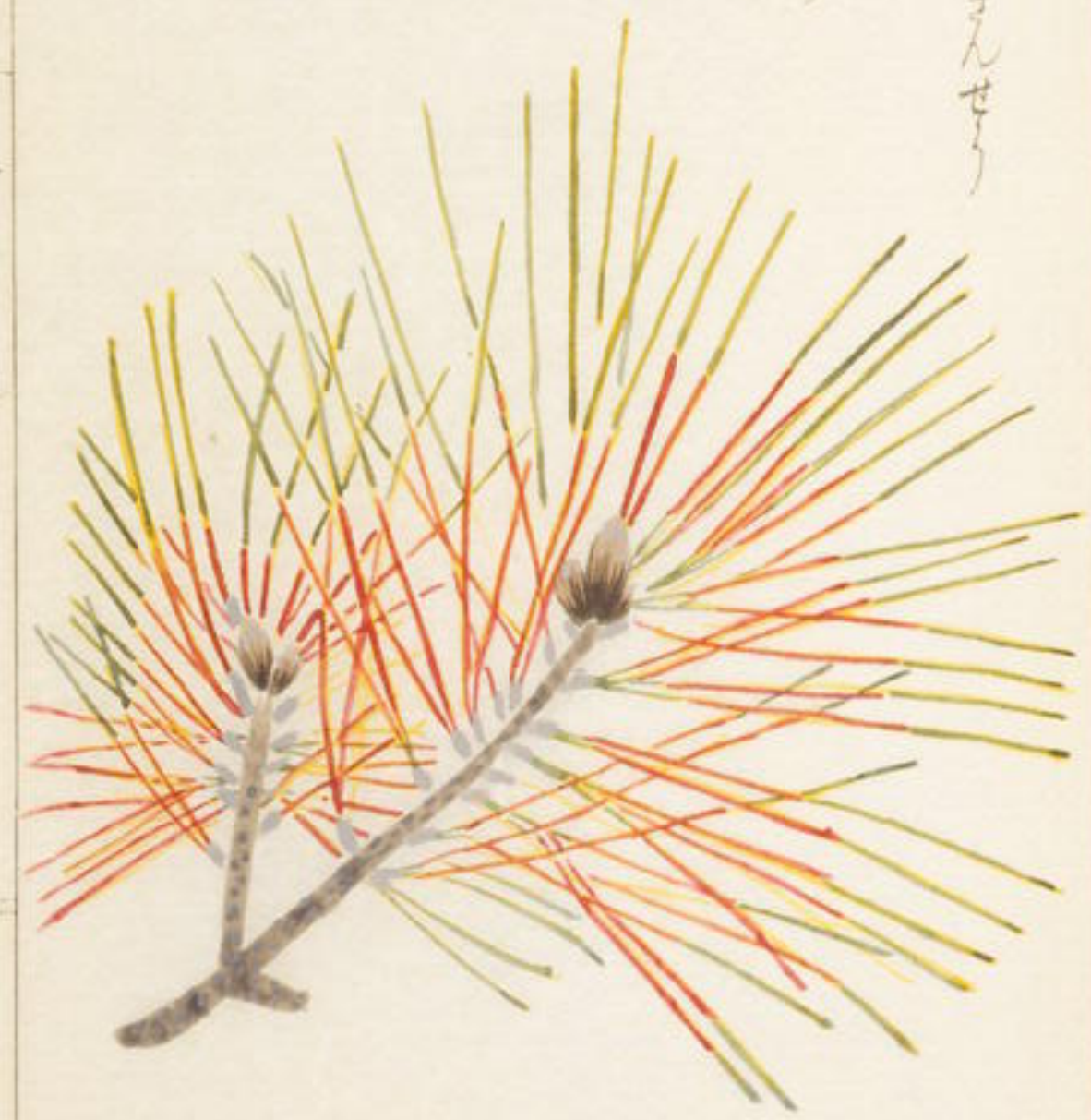
こうきんせう

性赤松にして春夏の候ハ青く秋の末より冬に至て金に黄色と

一種

こうきんせう

形状前條のこうかまつの如く春夏の候ハ青白となり秋月に至り紅を帯ひ冬月に至り深紅となり又春に至り紅き処白色となれり



一種

うつくまろ

つまじろ

葉の形常の赤
松の如く小さく葉
の先黄白色也

一種

やつ房 大坂

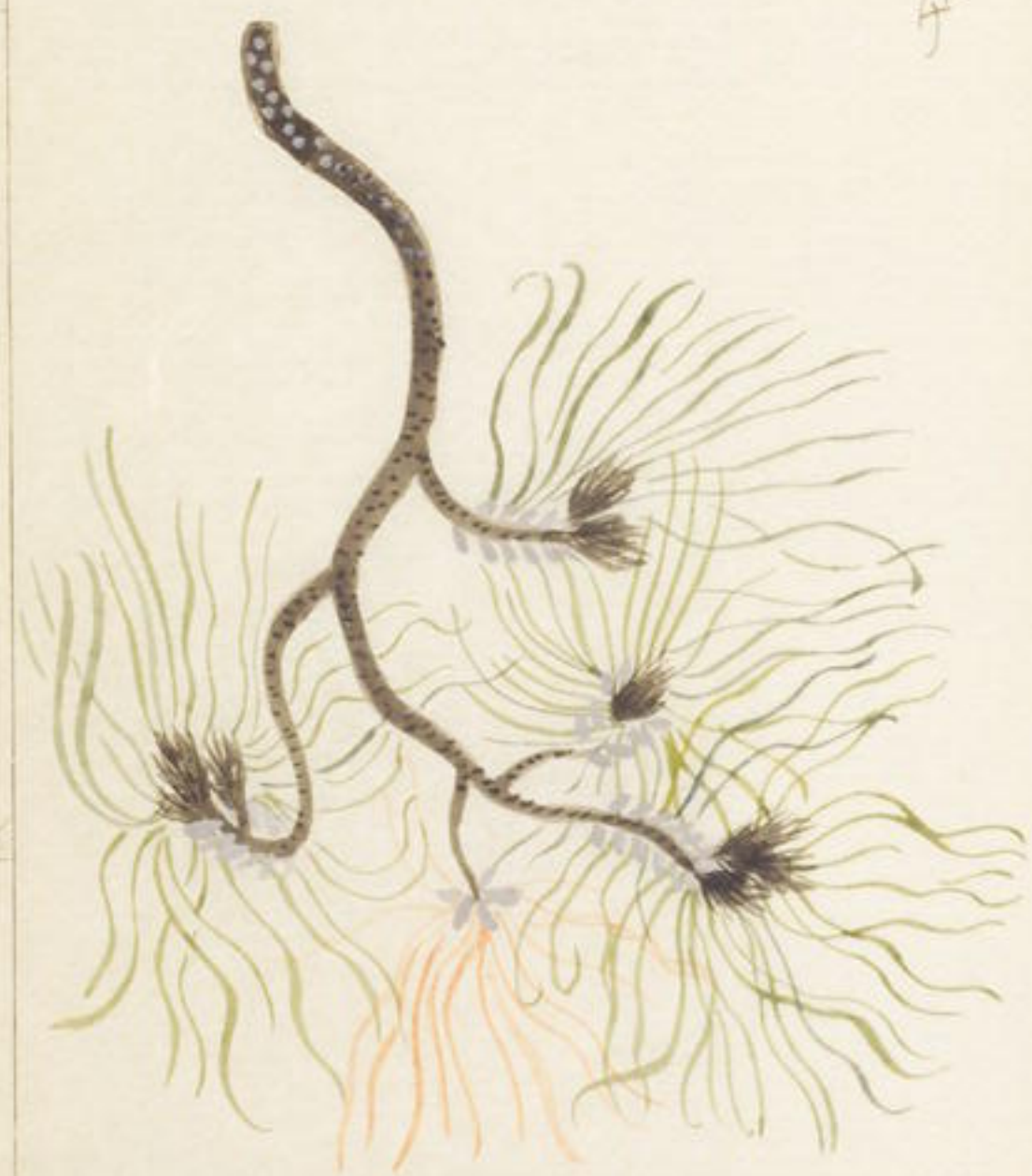
万代せら 江戸

近年大坂
より来る性
赤松の類
にして葉芭
細く枝繁
密なり

一種

さぶれまつ
さかりまつ
性赤松の類ふて枝細くして下垂すると柳の如し

一種


りまつのえげ
性赤松の類ふて枝も葉も屈曲せり

松脂　まつやに　松膏（本草和名引大清經）　松肪　丹光之母

丹光真華之母（共に同上）　糯（同書引兼名苑）　水明（同書引錄驗方）

松樹に生れるかゝく

松節　まつのふし

松瀦　ちやん

田村氏の説に二種ありと云古渡のちやんは椒槐木を燒て取りたる津液之新渡のちやんは荷蘭人の説に松の枝を燒て津液をとり作ると云故に古渡と新渡とは切能大に異之古渡のちやんは奥毒も消去に用ひ其新渡のちやんは膏薬の内に入る許りく又世間にてちやんと称れるものは胡麻の油に松脂を焼合せたる物之薬に能はと云り

松葉　まつのは

松花　まつのはな

四月七ヶ花を生れ黄色にして粉あり血を治られ功あり大に下血をする者に用ひ甚よし

木皮　まつのかは　松實　果の部に出れ

艾納　草部苔類に出れ　松蕈　菜部に出れ

杉　すぎ（和名鈔）　まき（古名）　徑木（沙南圖夫）　紗木（通雅）

刺杉（物理小識）

大和本草に木直なる故とぞ云ふ也（中略）日本に昔は杉をまきと云まきの戸なと云ふ杉戸なりと云へり集解に赤杉白杉と分つ赤杉は我實で堅く赤色に紫を帯り諸の器物に造る水に浸して数十年置ても腐れ折せれ最も赤杉と云へども皮の内に志ぐれあり白杉は我子ホ人此物にて心には赤とありと云へども少なくして色薄し此樹両品とすに出る国にすりて善悪の別あり又集解に野鶏班と云は木理美麗にして其樹さしの羽の如し和にてらぼらもくとゝ云

まつぎく
集解に二種に樹を分つとゆへとき
樹皮ふかひに花實をまふ同じ形
人唯をきと称するのと共葉の形
円く長さ二六分光実なり春月枝
の中に花を生ず松花に似て少く実
も頗る松実に似たり

一種
形状たまのをきの
似て粗く尋常の
物より繁く葉細
し

一種　たまさぎ

葉の形常の如き密に
枝も又密にして自ら円き
形をなれば物ある又枝葉も
また密にして切りとしたるやう
ふうをしまんねんなるをいふ

一種　ふさりさぎ
とりへさぎ　別属

形状多くふりさぎ
に似、葉枝に附をつゝ
実を生ず

一種

葉の形常の西に似て枝聚長く延て猿猴の手に似り

一種

樹高大に至る葉細く短く柔に冷淡色くむろと云るにむめむろの畧せし緑杉なる葉ゆ故に名つく

杉菌　菜の部に出る

本草圖譜卷之八十目錄

香木類

桂	めかつら	一	牡桂 解集
菌桂		三	一種 くろこが
一種	おぐんたにんない	四	一種
一種	物印忙の圖	六	一種 口上
一種	口上		木犀 さんもくせい
一種	ざんもくせい	九	一種 ひらきもくせい

一種	いぬかし	十	天竺桂 ぶふにんれい 十一
一種	ちろたも		月桂
木蘭	もくれんけ	十三	一種 まくもくれん 十四
一種	さらぎもくれん	十五	辛夷 ふしたしやこ 十六
一種	むくさきふし	十七	一種 むくのふし 十八
一種	むめふし	十九	一種 さいふり
一種	こかまふし	廿	一種 ちかたまのき 廿二
沉香		廿一	同 物印托の圖 廿三

奇南香樹	同上
沉香樹	同上

本草圖譜卷之八十

東都　岩崎常正　著
男　岩崎信正　校
門人　小山廣孝

香木類

桂

めかつら　和名鈔 如何の葉すゝ用なきあらいかつらのかつらといふ 別なり又枳をまかつらといふ又別妙之

百藥王　本草和名引 神仙服餌方

木王　同書引 大清經

青桂

山桂　同書引 鈴要訣

上唾　同書引 養生要集

梗招搖　同書引 兼名苑

咄者　伝説

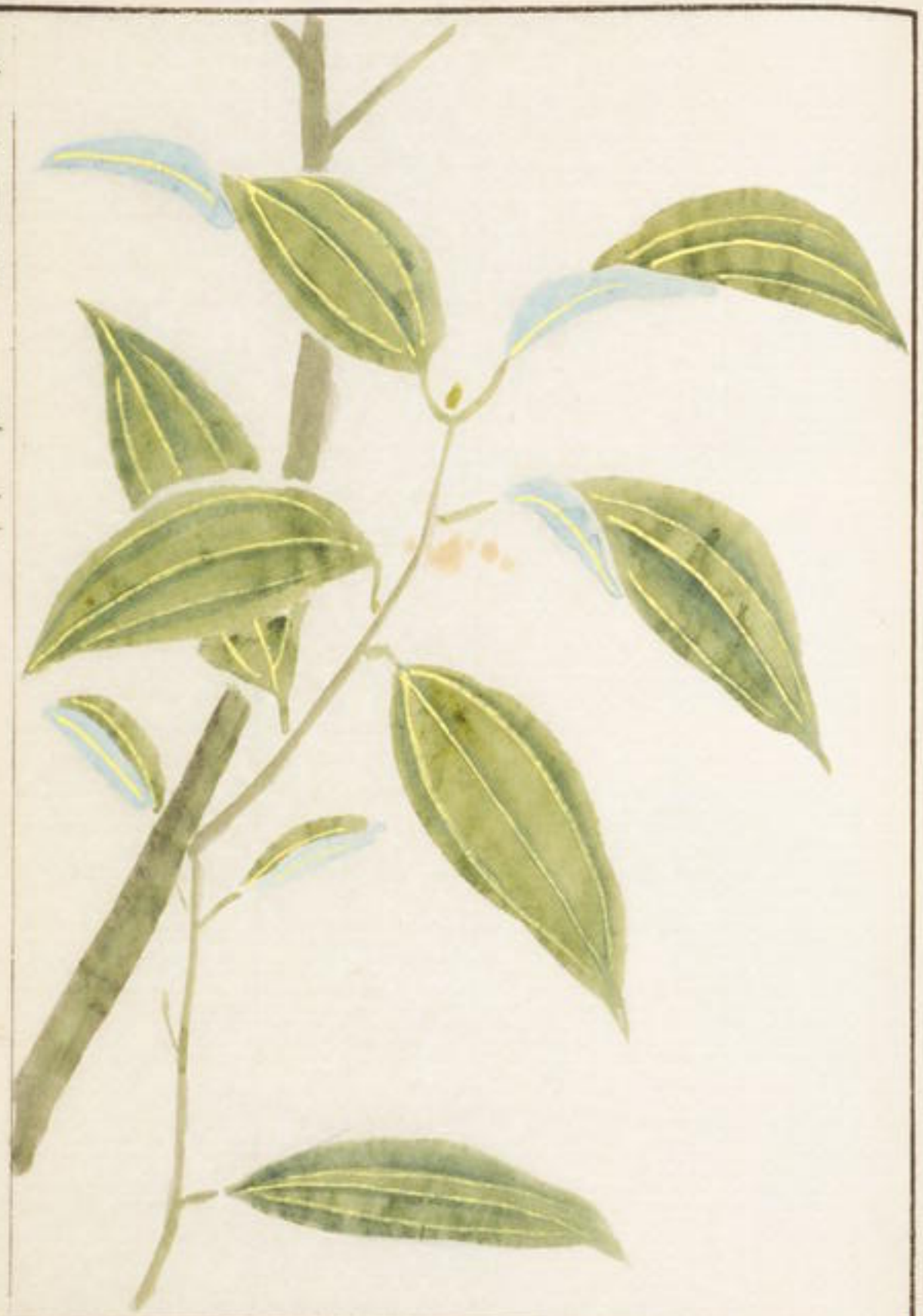
カネールホーム　物印 忙

キナモーミュム　羅 同

カネール　荷 蕃

天暦の御時僧長透立條の大ゆる桂を見て唐の桂心にまされりと云を今昔物語に見タルハ其頃より本邦に桂あるを知へし今拝するに心くハ和の桂ゆるへし漢種の種数年以前渡今所々官園に種きせられ大樹の物あり以下図に出す集解に桂と牡桂と或ハ一物とし或ハ二物とはとしても桂と云ハ惣名にて其内牡桂肉桂と類を分ちたり物ふるへし此説以下図の処に出す茶用に為品に各其取る処に因て名を別にも方書に肉桂桂心官桂桂枝にの名あり其肉桂と称せる物ハ本草微要に乃近根之最原昔と云本草約言に在下最原者曰肉桂と云り桂心と称せる物ハ丹溪補遺に名之曰心美之辞也と云又本草約言に云其底皮而留其近太之味重而最精者曰桂心と云集解に保昇藏器の説も同之可なり官桂ハ桂中の上品にて切口を押ハ脇取出す故に通名高山流水といへてこれも数せる物ハ桂枝も称せる物ハ枝皮のを之本草微要に桂枝即原上細枝以其皮薄又名蒲桂と云然に本草約言に桂枝も薄桂とも云ふるハ非なり又本経逆系に桂枝是最上枝條而名横桂言如横條之嫩に也と云本草通にハ桂枝即原上細枝條又有一種柳桂乃桂之嫩小枝條と云て二名に分つこの説時珍と同して佳之當に本草懸の説に従ひ桂枝と柳桂とも分つへし近来頼朱の物に偽物を雑へ渡れ或茅草枝或ハ樟枝を雑ゆ罪し撰と用ゆへし

牡桂 集解



享保年中南京種渡り諸国の官園に種させられ今大樹となれり葉對生にして本洞に未狹くして尖り幅一寸余長さ三四寸三の縦道ありて横紋あり四時茂に不凋嫩枝黄綠色夏月葉の間に小き穗を生し黄綠色の小花を開き秋月実を結ぶ熟すれハ黒色になる樹皮黄褐色内赤く味ひ辛く香気強く茶用に上品之小木ハ辛味薄く生ぶるハ淡味を帯ふ大樹に沈されハ気味全かられ此物韓保昇の説に牡桂葉似枇杷葉狹長於菌桂葉一二倍と云是之時珍の説に有毛及鋸齒と云ハ應見欤凡桂類に毛と鋸齒あるものなし 集解の諸説悉く考ふへからず

菌桂

安永三四の頃ろ交趾の桂一本船来せり此物官園に種させらる其葉長さ五六寸幅三寸許り鋸齒ふく光沢あり葉の紋牡桂も同しく三の縦道あり風を迎て自ら芽香を発せり天明の初寒気の烈しさに逢て枯り今堪たり其後渡り来ると云り

一種

くろこが 豆別

らんこ 蝦夷

和産自生の物人豆別及ひ小笠原島ニの畝国ニ多し葉の小ちゝハ棒葉の如く大ちゝハ拐の葉の如くにして光沢あり紋脉肚桂の如く三の縦道あり四時凋さ夏月葉の間ニ淡黄色の小花を開き後実を結ぶ黒色にして大さ大豆の如し樹皮赤褐色香気ありて味ひ辛し茶用ニ宜し又土佐より出る物あり味ひ辛くして香気強し乾和の種ちゝへし偽物あり舶来の品より却て上品人茶ニ用ちるに甚効あり

一種

をらんとおくはい 花戸

交趾 桂州尾

集解に弘景の説に經に曰桂葉如栢葉沢黒皮黄心赤とあるを僅恭は栢葉の桂あるとを知ことや陶の説をもつて保昇は恭は唯二種を知て陶を辭りとせるは聽断の甚さとも又蘇頌は栢葉のものは今鈍州所出者葉密而細恐是其類但不作栢葉形為異

爾と云時珍は全く別物とは常正按さらに栢と云くのは栢に髣髴なるに非へし牡桂菌桂に比されは細密なるを形様ありと見甘蘇頌の説是とされ水邦に有西に西國に自生して江戸に来る其葉甚小にして長さ一寸許幅四五分にて形指甲の如く葉の背微しもあり筋脉は牡桂に似て夏月葉の間に二三寸の穂を出して淡黄色の小花を開き実を結ぶ冬月実熟して黒色尖さて柯樹の形に似たり樹皮黄赤色味は辛く香気にはりて菌桂に似たり葉は全く別ぶれり菌桂に接するを見れば桂の類たるを知へし

一種

一種

シンナモミ
カツシアリクユアハ
物印忙

物印忙の図にして葉の形
桂に似たる花粗同しく
白色五六瓣之

一種

同書に載る図葉の
形前條に似て小く花も
又似て小なり

一種

同書に載る図上の
物も葉にして大なり

木犀 集解

巖桂 同上　きんもくせい　たも 天竺桂と同名

花仙 事物異名　仙客 典籍便覽　檜花 通雅

九里香 汾南圖史　金粟 品字箋　山友 事物紺珠

天闕清香　巖山圭木 共小同上　天香 尺牘双美

狀元花 名物方言　鳳尾 圖書　七里香 同上

丹桂 汾南圖史　紅桂 同上

樹高さ一丈計り葉ハ冬青似て硬く周りに鋸齒あり冬不凋秋の末莖の中に五四処に房をなして黄色の小花蕊生し形四瓣にして一分許り之実を必ず結ハ花香気四隣に及ぶ頗る瑞香に似たり唐山にハ数品ありて春花咲く物あり物理小識に春桂と云四季に咲もの

を秘傳花鏡に四季桂と云毎月咲くものを同書に月桂と云總して此品詩文等に詠ずる処の桂にして葉用の桂にあらず集解時珍の説に叢生巖嶺間謂之巖桂俗呼為木犀と云ふ

銀桂 集解　きんもくせい

前條と樹葉花ともに同くして唯花白色之香急も同し

一種　一　ぎんもくせい

樹ハ木犀に似て葉ハ木犀より濶く鋸齒深く頗る狗骨に似て細く木犀ハ惣て狗骨に類を同ふまるものにして村の水理も同し木犀を狗骨に接ときハよく活るなるを之れハ性甚近ものゝ

一種

いぬかし 大和本草

春桂 和俗 江桂 日上

丹桂 一名江桂

若水廠物類纂 引李德裕集

江木犀 華夷花木考

百花詩に云水牌其花紅即丹桂也と云ものとハ別ん此物俗にまつぐ内桂
とも云天竺桂の一類あり葉ハまつぐに似て薄く背白色香気あつて
味ひ微苦し二三月の頃ろ紅花を開く形ちくろゆしに似て美しく大和
本草に清水寺奥院の南方に冬ます春まで赤き花さく木あり其葉
桂の如くたもにも似たるを云

天竺桂　ゆふ　ゆふ　ゆい　松浦　ゆふ　ゆい　たま

山野に自生多く芭大樹とおゝ葉の形桂ます大に飲肌桂と同じ　かぐれ
樹の葉の如し香気芳草の気あり葉の間に三四花莖をなし白
色五六瓣の小花を開き実を結ぶ杉杞子の如くして三四粒一処に
下垂れ熟して黒色となり上に白粉を生れ樹皮をとりて桂と名け
出せとも気甚く薄く味ひて下品ん近来根皮を採て真の桂皮と
名け出れと又其茶用に堪れ樹皮よりハ微しく辛味ありて優れり

一種 志ろ乃ら
樹葉ともに
前条と同じく
唯葉の背に白毛あり
香い臭気あり
甚く下品なり
実の形同じくして
大葉椋の実に
似て稀あり熟し
て赤色なり

月桂

此品の即ち天竺桂の実を云ふ　ものん菌山の説に此実より蝋をとり
蝋燭に造ると云り

木蘭　もくれん　しもくれん

人家庭際に多く栽せ一根より叢生し高さ一丈許り樹皮頗る有り
のきに似たり二月の末枝の梢に花を開く形蓮花に似て辨厚く
其數六七辨外は深き紫色内は淡紫色微く香気あり中に一寸
許りの心あり葉は花に隨て生し形勝の葉に似て大に秒の葉よりは
柔らく

一種　たんもくれん

たもくれんと同じくして人家に多く栽せ樹葉りもに同しく花は点もくれん
より微く大に鮮白色なり

一種

樹葉ともにこまく
れんに似て花は微
し小く内微し紫を
帯ひ外は濃し

辛夷

あふしたしかみ　和名鈔　ゆまあらゝき　本草和名　和名抄

しきさんら　新撰　京曉　しぶし　しきさんら　津軽　松前

候桃　本草和名　引雞要訣　房木　候新　共に　同上

王甌　花暦　百詠　望春　秘傳　花鏡　猪心　八種　画譜

新雉　草夷　考　生庭　名物　方言

處々山中にあり樹高さ二三丈冬月より枝の梢に蓉を生れ小指頭の大さにして尖り黄褐色の毛茸ありて筆に似たり故に木筆の名あり春に至て漸く大に二三月に至り間々大瓣白色にして形木蘭に似たり中に紅き條あり花に從て実を結ぶ殻ありて長き房をなし其形琴の如し故にあふしの名あり熟すれは殻烈て中の不顯る冬青の子の如くにして紅色之葉は花終りて後葉を生れ互生にして形柳に似て本狹く薄く微し毛あり

本草圖譜 卷之八十
一種 むらさきさいふし
紅石喬 花史左編
紫蘭 本草彙言
樹形さいふしのせくだ
紅色を帶ふ此物宗奭
の說の紫の物之

一種あふこふし

白木蓮

いとおきさんら

生庭 名物方言

樹高く大に二月葉に先て花を開く六七瓣にして形木蘭の如く
純白色辛夷の花より大なり香なり花に從て葉を生ず其の
葉に似たり是時珍の說に有白色者人呼為玉蘭と云物なり

一種

ゑめ

さふし

ざつふり

重華

辛夷

學志存志

小木にして高さ四五尺枝の傍に斜
條を生ず三月頃ろ葉に先ち花を
開く瓣狹にして十餘瓣散開して
さいの如く白色なり

一種

ざいふり

形狀前の如く唯花瓣に
少し紅を帶とす

一種

ミやま
あぶし

山中にあり樹
葉となふあぶし
の如く葉の形微
し円にあり花
ハ未だ目撃せず

一種
をかたまのき

此物藻豎草又古今集三木の條ふ所の多あハ何物をさ乃ら詳
あらず今日向国高千穂山ふ大水あり圍ミ一抱ふ過ぎ高さ丈餘ふ
至ル葉ハ冬青ふ似て長く又辛夷ふ似て撓し撓葉青く大ふるふ
とハ四五寸ふ及ふ多くあり花白色ふして本ふ近き枝を葉い形狀
辛夷花ふ似て五六瓣其數定まらず実の形長房を成し長さ二
寸許り一莖ふ数子裂附て辛夷の房と同し香気又辛夷と同し
肥州奈知坐一天樹ありし又筑前香椎の宮ふもありと云り

沉香

堅黑（本草和名 引草長花）　黑沈（同上）　雲華沉油（同上別丹茅ロ訣）

阿揭路（最勝王經）　悪揭嚕（梵語）

アケルロキコハ（羅甸）　アケルロキコハサキコルリ（エムピ）　アーキコルボート（紅毛）

和漢通稱して沉香と呼ふ元ま多和産ふく唯古へ多拓木を持渡るのミ
多り―ふ文化年中長崎へ沉香と名付阿蘭人持来ち直ふ長崎の市園
ふ殺させふち其葉冬青ふ似て五生ル小水辺へ真偽の処見否相分ル
又琉球の草木を畫ける内ふ葉ハ冬青ふ似て葉の間ふ小き白花を旋生
せるものあり之ル沉香水ふりとふ石二種ふ分ル
青色葉似橘黄經冬不凋夏生花白而円状結実似横御大如桑越
紫而味辛とふ又蕚頌の説ふ嶺表録を引く其文も大概相同し此
説を考ふ之ハ舶来の物産の形狀似たり本花実を見ず之ハ合りや否を
不解唐東新話ふ沉香ハ日本ふ出るとあり
熱国ふ産さル之ハ生せル故ふ沉香も唐山の嶺南交趾ふ多あり其木全身
ミな香あるふ産ル或枝幹或ハ根株を伐ル
如く脂液凝りて香を結ひ又其結ふ時ふ多て各ち異ふ成ル本木の内ふ
脂集りて結ぶを生沉とふ水を伐て数年を経て結ぶを死結とふ
時珍ハ水と伐て後結ぶを生結とふ凡沉香ハ赤黑色中ふ質堅実ふ
して重く水ふ入て沈むものを上品とふ炮て油ち多ものを上品とふ味ひ辛く苦き
苦ふ多上品とふ甘味酸味のもの下品とふ又白色の斑多ものを多ふ分ち

を廣東新語に白木香と云用に世に近来舶来の中にあるに許しに
して桐の木の如にして油ふく心に黄色を帯るものあり是に全身皆微し
香あり芭下品人蘭人持渡るの内に長き二尺許り切口得り五寸程心持
て空し此を高家にて暹羅の桶皮と呼ぶものあり近来に持来るを新
漢渡の物に交趾大暹羅等之交趾の上品に伽楠に似たりと云て通
用に時珍の説の石柳桑の如きに俗に云大不の中にある物ならべし午
頭之頭と云類も大中の中にあり芝茵野蹄に木の節あり当る物あり
各其形に因て名く者あり其外御光様欲迦頭伊香良様覺破様
と呼ぶもの猶数あり又大泥暹羅に産する所を令ちといへども
清商に皆安南の産と云是を以て考に甘草を南京様福州様
と令るが如し甘草に皆安南の産を特来るに然るに南京様
福州様も分るに謂れあるに唐山にては嶺南の産を上品と
に蛮国の産も下品とする故ふり沈香の一種に伽羅し称するものあり
抔するに伽羅に沈青日札に奇南一名奇藍と云あり轉したるならべし日
札に奇南に香の名蓋言南方之奇木也と云々廣東新語を考
るに伽南と沈香とに一類二種あり奇南に沈香を生ずる水の下に大
蟻穴居するを数年其処に結ぶともあり沈香奇南の図以下に載せ

沈香樹

エロエスホート　荷蘭

一本の蘭書に載せる図
其葉は冬青に似て本潤く
未尖り葉幹の間に茶を結ぶ
大さ冬青に似紅色樹皮
剥あり

此図本に
載る図の
小異なりて
恐くは同物
ならん

奇南香樹

アクリスムアルース 荘旬

アルトスホート 和蘭

物部地に載る因葉の形竹拍拍又冬青葉に似て厳く尖り香樹皮黄褐色赤心黄色葉の間に実を結ぶ又冬青子の如く紅赤色なり

沉香樹

リクスムアニシ　羅甸

アチースホーム　和蘭

同書に載る因葉は一葉に六葉対生し一葉止りに附き形黄蘗の葉に似たり梢に一二寸の穂を生じて五瓣の小白花を開く樹身刺多し藏器の説に沉香枝葉並似梢と云似橘者恐ぶ是せと云ハこの類ならんか

本草圖譜卷之八十一目録

香木類

丁香 てうじ 一
丁皮 三
丁香 一種 天竺の産 四
一種 雞舌香 五
丁香 舶来の実 雞舌香 物印忙の國 六
檀香 白檀 集解
黄檀 七
紫檀 同上 一

降真香　不詳
樟　ふしのき
釣樟　くろもじ
烏藥
一種　ちろもじ
必栗香　不詳
薰陸香乳香　物印忙の圖
沒藥　同上

楠　くすのき
一種　細葉のもの
一種
一種
榱香　かしくすく
楓香脂　とりかへで
一種　同上
騏驎竭　同上

質汙　不詳
蘓合香　物印忙の圖　廿三
詹糖香　不詳
篤耨香　同上
樟脳　ふしの果
一種
同　物印忙の圖　九種　廿八

安息香　同上
一種　同上
結殺　同上
龍脳香　廿五
阿魏　そらし　物印忙の圖　廿六
蘆薈　あだん　廿七

本草圖譜卷之八十一

東都　岩崎常正　著
男　岩崎信正　校
門人　小山廣孝

香木類

丁香

ちうじ　百結花 嚴蠹隨筆　索瞿者 最勝王經

コロイドナーケル 荷蘭　ナーケルホーム 円上　ナーヘル 円上

リクスムインチキスス 羅甸　インチアンセホート 荷蘭

カリヨヒルリーメント 羅中嶋譯　ムールナーケル 荷蘭 円上

物印忙ニ載ル圖

和産ハ東西洋考ニ経渤泥苧横門答剌ヨリ来ル蛮国ニ香山アリ満山皆丁香
ヲ産ス雨後溪水ニ随テ山ノ麓ニ多ク流レ出ルヲ拾ひとりて中国ノ商人ニ売ル云リ
然レハ唐山ニモ無シト見タリ　和蘭物産忘園ヨリ　樹皮黄色葉ハ柯樹又橘
葉ニ似テ対生ス　枝ノ梢ニ細枝ヲ分チ数十顆ヲ結ブ蒂長ケ寸ニ赤烈ス中ノ子
顆ニ形瑞香花ニ似テ黄褐色ヲ帯ル　西志ノ説ニ丁香生交廣南番按廣州園
上ニ丁香樹高サ餘類桂葉似梅葉花ハ細黄色凌冬不凋其子出枝上如
釘長三四分紫色ト云能ニ説ニ合ス又曰書ニ丁香ノ花ノ蒂アリ枝ノ梢ニ二三
花ヲ開ク形錦茶花ニ似テ蕚緑色深紅色ニシテ五六ノ瓣ヲ中ニ抽テ淡青色
ニ蕊モ生ス黄色ノ実アリ　珊ノ説ニ丁香生東海及崑崙国二月三月花
開紫白色ニ為ル　合リ　大和本草ニ蘇恭ハ煮ル汁ヲ貴ブトアリ　ハ
ヘ冬ノ久ルヲ香薬ニハ酒ニひたせハ香生ルト云フ　丁香ハ別ニ貴賤ニ
中国ニ品位ノ貴賤ヲ別ツ　新ト枝ト一名ヲ南家ニ乾ルヲ好むトヲ
重用ニハ肥大ニシテ斤日重ルヲ好ム　久ル焼酒或ハ濃茶ヲ渡テ物ヲ以テ

覆ハ一宿ヲ経テ取リ出シ肥大ナルヲ貴用トスト云フ

丁皮

丁香の樹皮ノ田村氏の説ニ丁香皮の形肉桂の如ク多ク香丁香の如
クニシテ然ルニ烟飯丸の方中ニ入ル中ヲ温め食ヲ消化ス功アリ
一種偽物の丁香皮アリ外ハ丁香の香気アレトモ内ハ肉桂の香気
アリトシレハ咬嚼吧肉桂ヲ以テ偽造ス其用ハ入ルヘキ処本経逢原ニ
丁皮ヲ以テ肉桂ヲ偽ルトアレトモ今丁香皮少キ故肉桂ヲ以テ丁
皮ヲ偽ル古ト大ニ異ナリトス

丁香

一本の蘭書に載る圖其葉茵芋に似て穗の形ハ和俗稲ほる処ニ崑崙花ニ和く枝幹節ニ紅紫色不ニ又紅色形ハ前圖に同し

一種

蘭人シナイ木ルト持来る物の圖大笠に産ほる品よし

一種

舶来のをし葉の形柳の葉に似て大に葉の本に房を刮て花を開く形小く前條の圖に似たり

鷄舌香

釋名　亭尖獨生　本草和名引丹口譯

舶来の実の圖長さ七八分にして形樞の実の如し
鼻三四瓣あり紫褐色あり此品菓子の用に入れ菜
用に入宜しからず雷敎の説に雌者大如山茱萸名
母丁香といへり華夷花木珍玩考に唐本注を引
て雞舌樹葉及皮並似栗花如梅花子似棗核此
雌樹也不入香用と云り

丁香

舶来の実の圖形はいかりの花に
似て紫褐色あり此品長さ五六
分先に花の実の如きものあり
香気あし

鷄舌香

リクヌムインチキスム　羅甸
インチコンマホート　荷蘭

物印帖に載る圖葉ハ楮に似て互生し枝の間に実を結ぶ形石榴に似て小にして黄褐色なり

檀香　賛那裹 梵語　サンチル木ット 荷蘭　リグニュムサンタル 羅甸
サキタアンヒーヤー アンマアウ 満州方言

和産なし檀香ハ惣名にして三種に分つ

白檀 集解　イリヤウス 蛮名　白銀香 廣東新語　欖檀 通雅
摩羅廈 梵語

白檀ハ和漢通名にして舶来あり質柔にして脆く白色香強し小島云和にて護神香と云も白檀の上品より出るといへり

黄檀 同上

舶来の物あり之れをまめのちでと云黄色を帯るもの之又黄色に油色を帯るものをあふらきと呼ぶ白檀黄檀の二品ハ上にして薬用及び香に用ゆ

紫檀 同上　紫桐 廣東新語　紫梅木 古今注　リイニセツ テレイス 荷蘭
ホウセントロ　カリマラユール ホウト 同上　リグニュムカリマテユーソユム 羅甸

古渡の物ハ木理細密にして甚だ堅く紫黒色之新渡の物ハ木理粗にして紅紫色之諸の器物に造る香気なし葉用にハ稀に用ゆるもあり大和本草に秋氏の云赤栴檀といふ紫檀なるへしといへり

楠

うがしろのき 江戸
しゆろのき 武蔵 品川
かぶだも
おかのき 相蔵 鎌倉
あをき 阿蔵
しろぶも
まだも 八丈島草たしあり 対して 真たしとき

楠もしるに此物楠あり 江戸又武蔵東叡山其外にも あり葉は茵芋に似て莖紫色夏月丁香に似たる花を開き後実を結ぶ又形丁香に似たる熟して灰白色之八丈にて此根皮にて間色を深又此実を食ひとき材は舟に造れ堪と云へり

葉ハ天竺桂ニ似テ短く互生して冬凋ふれ春新葉を生して後宿葉落ち葉にも樟脳の気あり夏月白色にして黄色を帯る小花を開き円き実を結ぶ熟して黒色人樹の心の黒色人此樹を製して樟脳を採る

一種

葉の形前条
より細く長く
花実とまた前
条と同し

釣樟

くろまじ
ちちや 信
ちちのき 田
ねろ 越前
とりあしば 松前

山野に自生多し木皮淡
緑にして黒斑あり香気
よく此木にて月枝を製
れ葉の柯樹に似て硬
く互生をなし春月葉
に先て花を開く五弁淡
黄色にして四五花を族
生れ後実を結ぶ大さ
南天の子の如し秋に至り
熟して黒色なり

烏藥

矮脚樟 物理小識　雪裡紅 同上実名

和産ハ享保年中漢土ヨリ天台烏藥と衡州烏藥と二種渡り諸國官園に栽ませられ今世二ニ多ク其台長烏藥之灌木にして高さ八九尺根の際ハ多く科修を生ハ葉互生して形蘭桂に似て円く小く三の縱道あり面深緑色にして光沢あり背ハ微し白色を帯へり三四月葉の間に小黄花を族生ハ形状釣樟の花に似たり秋月實を結ぶ大さ冬青子の如く熟ハ紅色此実より油を搾り燈に点ハへし根ハ余木に異にして形色戟の如く連珠を成ル香気あり舶来に勝れり此物集解横須の説に符合せり

一種

天台衝列ー二種舶来の内の衝外に物あり樹葉の形状大台烏茶に似て葉に長ミあり樹葉生せれして大樹となる根に連珠をあるに常の樹根の如く香気薄し花実も又天台の物と異なるものなし

舶来の烏茶多くハ陳久にして香気薄し用ゆるに堪さる物あり足新根を用ゆへし此内にんくりてと呼ぶものハ根百部根の如くこれ集解に連珠の如しと云上品なり此物台外烏茶根にあるに又捧てと云連珠をあるに常の樹根の如し此物下品也

一種

しろしゞ　日光

らんしゝ　京

のそぎ　豫州

しらき　信州

いぶふ　播州

しろき　豆州

ふつで　筑州

藏器の説に一葉三種と云るにより古人此物を充つ山中に自生多し樹高さ一丈許り二月頃ろ枝の梢に葉に先つて花あり房をなして形釣樟に似て淡黄色葉互生し一葉三種をなして形牽牛子の葉の如く老樹となれば円葉も交り生ず冬月に至り落葉し根は連珠をなされ微し香ありこれ又別種にあらず鳥宗の一種なり文政九年来朝の蘭人シーボルトに此物を問しにサツサフラスにて神経を強壮にあれば要茶なりとぞ

榱香

かしらゝ　松前

のくるゝ　さしくるゝ　尾及

葉の形胡桃に似て小く春葉の開に花を生ず形胡桃の花の如し長く本に毬を結ぶ樅の根に似て円し大和本草に賤民以て沈香に代とゝ集解に葉小薊に似なりと云根又枹杷に似なりと云を召せ考かに此はめくるゝを充てるを近しとす

樣香

楓香脂
とうかへで
楓香脂
芸香 本草原始

享保年中
公命に因て
漢種をとり
よせられ東都
に種させらる
今大樹にある高さ二三
丈に至る葉は大にして掌
の如く三の尖りあり 春の末
葉の本に花を生ず形かまつるの花に
類る似たり 後実を結ぶ形 悪実の如く

周りに軟き刺あり 熟をれば
褐色になりて落る此実を
焼ば沈香の気あり 葉晩
秋に至り黄色となりて散
落ちかへでの如きあり

薰陸香乳香

的乳 本草彙言　滴乳 集解　明乳香 附方

黄明乳香　白乳香 以上同上皆上品の称

雲華汎腰 酉陽雜俎　君杜魯香 羅語

マステイツキ 荷蘭　キエンミマステイツキス 羅語

ヘリヱアーンセマスチキホーム 物印托

薰陸香樹ハ和漢ともにあるゝ故に集解の諸説其形状明らかなれ或ハ松に類ひと云或ハ棠梨に類ひとも云ふに傳聞のまゝにして決せれ物印托の以て按するに乳香あるもの二種あり一種ハ葉の形接骨木の葉に似て鋸齒ありて対生し房をなして小黄花を開き子を結ぶ大さ南燭の子の如くにして紅色これハ真の物なり此樹より出る脂液凝して塊をなし形乳頭の如きもの

を乳香と名く黄白色にして石を雑へず透明なるを玉様と云ふ上品とす此品唐山より持渡る薬店にてちろひとつ又俗に玉乳香と云ふ薬用に上品あり下品の者ハ玉ならく塊をなれ又舶来の内に形松脂の如くにして紫赤色砂石の雑りたる者ハ下品あり此時珍説ところの乳塊あり又薬店に和の薫陸と称するものハ琥珀の下品あり乳香にあらず用ひへからずこの物ハ奥及南部より出る琥珀あり火に燒松脂に似て臭気あり今俗に薫陸と称し蚊をいふものこれあり和名本草にて薫陸奥及南部より出るものこれあり薫陸奥及に出ると云ふをこれハ右より出ると見る田村氏の説に西川名勝志に福及に乳香ありて石の間より出る乳香岩と名つくとあり本邦の人これらの説に由て薫陸を以て琥珀の一物と心得て云ふてたるもの誤りあると云ふ

薰陸樹

一種

レンチスキユス 羅甸
マスチヲホーム 荷蘭

同書に載る圖葉の形竹葉椒に似て短く又皂莢の葉に似て葉に直葉を生ずると盥麩子の葉の如し葉の間に膚をなして碎花を開き実を結ぶ山椒の如し江色なり

沒藥

メイルウ 羅甸　メイルレ 荷蘭以上物印化　キコンミメルレー 羅甸
メツラハ 荷蘭

和漢共にかくし故に集解の形状詳らかなれ物印化に載る圖を以て按るに葉の形葉の葉に似て互生し枝幹黄褐色にして葉の間に四刻あり花実の形は蕃せざる必ず知へからず製茶の物舶来あり一種は沒藥と称して塊大なく黄黒色にして堅く土石ましりてあり味苦く香しこれ真物にして茶用に上品なり中島の説に唐蛮持渡り中琥珀色の如く透色あるを上品とは然れども透様許り来るは黒色にして砂石を挾む大塊の中に雑へ合せて持来る是を藥肆に於て煉沒茶と云真物にして水脂にして別に類なし二種花沒茶と称して廣さ五六分長さ一寸許り扁き子の如きもの重なれり淡赤色にして光沢あり

没藥

騏驎竭

血結 道生八綫　血衄 升科正宗　瓜血衄 上同

バルマプリユニヘラ 和蘭物印花　サンコイスグラユーニス 羅甸

タフーケンフルート 荷蘭中嶋

和漢共ニおくり物印帖ニ載ス圖あり樹高く聳ちて枝なく形棕櫚の如くなりて毛なく樹の梢ニ数葉あつまりて芭蕉の如く其葉長さ数尺周り紅色にして竪ニ紋理ありて斜ニ紋なく洋葱ニ似て長大なり此樹より出る脂液を以て騏驎竭を製れ舶来の品ハ直脈圓より出たと云此中にちまきでと称するに数品あり中尋の説ニ棕櫚の中ニ五ツ六ツ結び連たる者ニ上品あり又状様ハ長さ大さ共ニ状のごとし是も蒲葵冬葉の類なり包ミ藏を小く割て一寸程間を置き結ひたる物之箇様ニ右ニ准ハ此二種最も上品ニ又盤様あり状ち種ニあり是ニハ上品なし古渡のこちまきこの中ニ黒色を帯赤く光りあるものあり此を細末にすれハ鮮紅色ありられ上品にして菜用ニ良なり又新渡の物ニ長く包ミたるを大ちまきでと称しふく包むものをおちまきでと云これにも又大小上品下品あり又四角ニ包ミたるをむかんでと云これハ下品ニいつれも包ミたる葉ハ騏驎竭ありこれを見て葉の長さとを知るつしとつつり舶来の中ニ偽製の物あり或ハ包ミたるをしたるものニハ著葉蒲葵棕櫚葉ニを用いたるもあり集解の説ニ葉似櫻桃而有三角ニ云ハ何物を以て騏驎竭とおしたるに未だ詳ならず三角ありて云説ニ従て中古こつてと云木を充つ此樹より脂出れとも騏驎竭の偏ニ出れ

同

ト子ウスに載る
圖形前条に似て
梢に枝を分ち枝
の先に葉を生ず
又前条に似たり
花は穂にあり
生し円き実を
結ぶ其色粉色
ふきゆく明らか
ならず

廿種合香　ステイラクス羅甸　ストクラクス蘭荷

和漢ともにあらく物印忙に圖あり葉の形ふとうに似て莖紅色面淡緑色青
淡黄色花実の形詳らかなれ蘭山の説に舶来の物に塊をあれ者を蘇合香と
云釈ならものを蘇合油と云とつて田村氏の説おもくれを云う某用にハ蘇合
油を用ひ可くとなり

一種

同上の圖莖紅色にして葉を生し形枝の葉に似て小さし梢に花あり形梅
花の如く白色に青色の筋あるを云ゆるに如し葉は黄色にしてまれり

廿稹 合香

一種

龍脳香

脳子 阿方　却布羅 西域記　鶏布羅香 慈恩傳

藥却布羅 梵語　カンホラーホルヲーオー 羅甸　カンフリヤ 荷蘭

ムツリインカヒヤアンマアウ 満外方言

和産なし集解の諸説老杉より出るよし云れども杉類の香にあらず樟類の香に似たり先年龍脳の冥生を蘭人持来る其圖を見るに葉の形壯柱の葉に似て薄く樟葉に似て長く三の縦道あり莖紅色にして対生し葉間に枝を分ち房をなし細き枝を生し五瓣の小白花を開くこの物に由て本邦の物も考ふるにいぬくすと云あかんすと云ものの樟の類にしてあり豆外志に嫩芽紅色樟脳殊に多し云り此品を試むるに梹葉の香を急しく全く龍脳の香あり然れども水れ小木にして脳を採り試ることなく決せざれども先年蘭人とーボルトにあかんすとの枝を見せしにおこブルボームなりと云るに由れば龍脳樹に決りとし龍脳舶来の物に古ハ蛮産の物をよしとし漢渡の物を下とし今然らず漢土の物に色純白にして軽く花片の如きもの梅花片と云香気烈しく其大なるものを大梅花と云これ本草原始の片脳又氷片也新度ハ純白ならずして水色之れ又上品之又其

店にて樟脳を以て焼くし片脳と称し賣用ひ宜しく真物を擇ひ用ひべし

樟脳　くすのかふ　朝脳 本草原始　樟氷 外科正宗樟ハ樟の誤ニ本草ニ

本邦にて薩尾肥前にて樟脳を製れ其法集解と異なり先つ生木の木心赤黒色あるものを伐り細かに小片となし又根も同しく片となし其片を蒸籠に入れ釜のしくに置き器を以て蓋とし土を以てめぬりをなし気のもれめゆりにて竈より強く火を焼ときハ樟脳升りて器につくを露珠の如しこれを竈より取り冷しむれハ器内に脳を結ひこれを旺て用ゆ此樟脳樹ハ前にいたはせしのうわくなり

阿魏　そうし 本草和名　阿虞截 西陽雜俎　哈肯泥 通雅蒙古の名

アツサフミチタツリ　ユテキス 和蘭物印忙　アツサーフライ　ター 羅甸

トイフルステレツキ　荷蘭

和産なし物印忙に二種の品あり其一種ハ形馬芹の葉に似たり一莖五葉其一葉長さあるて粗き鋸齒あり これ藾蒿の説に苗葉根莖酷似白芷と云ものに合り又一種ハ木本の如く葉互生して旭杞の如し藾頌西陽雜俎を引て木

長八九尺皮色青黄三月生葉似鼠耳無花實と云へるに合り此二種の物の津液を採り膏となすものなり舶来の物数品あり先年蛮人ヘイスドル長崎へ持来中に白褐色少して黒色を雑へ臭気ありといへども蒜臭とハ異にして其膚密にして栗の如く是真物なりて本草原始に謂ゆる栗魏なり又茶褐色なる者あり真ともへし藾蒿の説に婆羅門云薫渠即是阿魏と云といへども薫渠又興渠とも云英部の胡荽なり阿魏胡荽ともに性臭にして能臭を止むと同じ此ハ興渠ハ佛家禁食れる処の五辛の一心猶菜部胡荽の下に阿魏と同物とあれ説なれハ別物なるを然り此物漢土とも真物少くなくなくして蒜を搗て他物をまゝへ偽充るの説多し真物を能見されハ舶来の物なり偽物多かりんことこゝに於て察せり

盧會

あだん　蘆薈　臺灣府志　龍舌草　同上

象膽　本草原始　アルエス　罷甸　アロエソエトリナ　荷蘭

本邦古ハ無し　近来琉球より渡り人家に培養し同国より渡る阿咀呢に形状頗る似たれとも別物なり　あんの葉ハ長さ二三尺幅二三寸一幹に互生し形蘆薈の葉の如く白斑ありて圓りに角刺あり　全体肥て厚く肉多く脂液甚粘滑なり夏月葉の間より三四尺の莖を抽て末穂をなし花を同じく形筒子にして全く同かれ蘭蕉花に似てふく黄赤色なり此物熱国の産なへ寒を恐る冬ハ窖中に養ふべし　集解に水脂のゆゑに云又草蘆薈龍草なとも名あるを以て別種とするハ非なり今蠻人あだんより蘆薈をとり又一統志に云処證とあらくし且寒を恐るゆへ寒国にてハ草の如く暖国に養ふ物ハ肥大にして其樹枝の如し然れハ樹と云とも可之本邦にても日向紀見豆見房元等に栽るものハ枝を分つて樹となるなり

同
物印忙の圖

一種　同上
花黄紅色の物

一種　同上
花深の物

一種　同上
花黄紅色の物

一種　同上

一種　同上

一種　同上
花白色の物

一種　同上
花白色に褐色の
紋理あるもの

一種　同上

花淡紅色のもの

盧薈を製するものハ前に圖せる葉の内を皮を去り其間の津液をとり彼れハ黄赤色の脂出るこれを陶器に入日乾あれハ膏とふるこれを茶用とあれ舶来の中にも数品あり形熊膽の如くにして大に外皮厚く内黒色肌細く光りありて味苦きを熊膽の如く濇にを帯るもの人此真物なり又形合利の如く塊をなして黒色を帯て重く未とあれに石の如きものハ下品にして雑りあるもの人用なくなり本邦にても偽物多き也必擇ひ用なし此物却用多しとゝへとも狐に用ゆれハ死し又誤用されハ吐血すと云ふ見れハ謹ミ用んを可なり

特1
278

本草図譜

味果類
蔬類
水果類

71-81

一之